

その人、 田池留吉 第一卷
(ホームページより)

この冊子は、二〇一〇年二月から四月までに、田池先生と塩川香世さんのホームページに掲載されたものです。

— 田池留吉の世界 —

田池留吉と私の出会いは、さかのぼ遡ること、十七年の年月が流れています。一九九三年四月、場所、熱海のとあるホテルのセミナー会場でした。

新幹線の車窓から、くつきりとした富士の山を気分よく眺めながら、私は、熱海の駅に、一人降り立ちました。

そして、セミナー会場の最前列のテーブルに陣取り、私は、田池留吉をお迎えしたのです。それが、私の宿泊を伴うセミナー参加の始まりでした。

今思えば、私は、教えを請うというよりも、宣戦布告のラッパを鳴らして、田池留吉の世界に乗り込んでいったという感じでは。

もちろん、当時は、そんな大それた思いを抱きながら、セミナーに参加していたとは、知る由もありませんでした。

私は、自分の周りに起こった出来事から、ようやく、重い腰を上げて、学び始めたのでした。

今は昔の話です。そんな私が、よくここまで学んできたなあ、いいえ、学ばせていただいたと、深く感謝しています。

しかし、懐かしさに浸っている時間はありません。

その人、田池留吉、田池留吉の世界を、心で知っていく方向に、私は、全力を傾けようと思います。

出会うべくして出会ったこの出会いを、私は、自分の中で味わい尽くしたい、何かそのような感じ です。

まだまだ力量不足の感がありますが、今、私はそうできる条件を揃えていることを鑑み、嬉しい作業をさせていただけることを喜んでいきます。

さて、私は、直近に、「第二の人生——ラストチャンスです——」という題名の本を発刊させていただいています。

読んでいただいた人は、お分かりのように、あの本には、田池留吉という文言は一切使われていません。

私は、あえて、そのようにしました。

本の最後のほうに記した正しい瞑想ということについても、実は、ズバリ、田池留吉に心を向けることだと記したかったです。

しかし、私は、あのような表現で留めました。意図的に留めました。

それは、私の中に、田池留吉の世界を、どこかの教祖や開祖、指導者などと同程度のレベルにとらえてほしくないという思いが、あったからです。

田池留吉とともに、長年学び続けてこられた人達の中にさえも、まだまだ、田池留吉が言わんとするところを、的確にとらえることができない人達が大勢います。

ましてや、そうでない人達に、いきなり、田池留吉に心を向けてくださいと言ってみても…と思ったので、私は、あえて、そこまで踏み込みませんでした。

私には、本気で、真剣に自分の人生を考えていこうとする人達や、自分の生き方について考え直していこうとする人達に、何らかのメッセージをお伝えしたいという思いがあります。

もちろん、「第二の人生——ラストチャンスです——」という本も、そういう思いから書かせていただきました。

「第二の人生——ラストチャンスです——」という本を読んでいただいて、さらにそこから本格的にやってみようと思う人達に、このホームページを通して、私の熱い思いを語ってみたいと思っています。

その思いが、どこまで心に響いていくか、率直に申し上げて未知数です。

私は、ある面、それは、仕方がないことだとも思っています。

自分達を作ってきた意識の世界は、そう簡単には変えることができないことを、私は、学びの年月を通じて、たくさんの人達から感じさせていただきました。

やはり、自分達を形あるものとしてとらえる思いは、断然強いのです。

どんなに、そうではないんだと頭は納得しても、心、意識は、そう容易く納得しない、それが残念ながら現実だと、私は、思っています。

しかし、私は、その現実をきちんと認識して、その上で、自分のやっていくことは、これしかないという思いを、どなたも持ち続けてほしいと思っっているのです。

その思いが、このようにして、パソコンのキーを打たせるのかもしれない。

今世という時間を共有して、ともに学ばせていただいた人達がいます。また、これからやっていこうとする人達もあると思います。

一人でも多くの人が、きちんと、自分の進むべき方向が自分の中で定まっていくなかなか感觸を味わうことができたならと思います。

田池留吉の世界の田池留吉というのは、むろん、一個人を指して言っているものではないかもしれません。

田池留吉という人名がついていますが、その人個人の世界という狭い世界のことではないのです。

そもそも、洗脳をするとか、遠隔指導をするとかいうものは、本当にちっぴけな低俗な次元のもんです。

平たく言えば、あなたを洗脳しても、遠隔指導をしても、田池留吉には、何のメリットもありません。

田池留吉の世界は、世間で言うところのギブアンドテイクではありません。

ギブアンドギブ、オンリーギブと憶えておいてください。

田池留吉とともに、学んでこられた人達は、このことを知っているから、きつと、長いお付き合いができていのだと思います。

また、田池留吉の世界には、化けの皮はありません。従って、はがしようがないことを、私は、学んできました。

実際、私は、最初に語りましたように、盲目的に、田池留吉様、教祖様と仰ぎ見ながら、教えを請うてきたではありません。

むしろ、その逆で、あいつの化けの皮をはがしてやろうという意気込みでした。

そんな私が、よく、ここまで変わったものと、密かに私は、思っています。

それは、ひとえに、田池留吉の真実を伝えるという思いの熱さのお蔭でした。

それは、それは、根気よく待っていたかったです。手取り足取りと表現しましたが、本当にその通りでした。

ただただ真実を伝えたいという田池留吉の思いは、それこそ、昔も今も何ら変わることはありません。

年齢を重ね、形を見れば、世間一般の老人に違いないけれど、田池留吉に関して言えば、そういうものは、度外視すべきでしょう。

肉体的にも、同世代の人達からすれば、ほとんど驚異に近いです。もちろん、その意識の世界には、年齢云々がありませんから、田池留吉の思いは、なおも熱く、そして、限りな

く優しいということです。

田池留吉が、そのすべてを賭けて、私達に伝えたい思い、本当に今、私達に伝えたい思いというのは、これは、本当のところは、どんな言葉を用いても的確に表現できません。

その世界を心に感じ、出てくる思いは、嬉しい、ありがとう、幸せ、喜び、そういったものです。

そういう表現に留まっているというのが、何とも歯がゆくもあります。後は、それぞれがご自分の心で感じていくしかないのです。

言葉で表現できる部分は、もうすでに、書籍を発刊済みです。それをいかに理解しているかは、ひとえにあなたの心にかかっています。

田池留吉の世界を感じていく

一、瞑想を続けていますか。義務ではなくて、生活のリズムとして、瞑想を楽しんでいますか。何かを感じようではなくて、ただ思うことが嬉しい、楽しい、ありがたいとなっっていますか。

振り返れば、一時間瞑想をしましょうと言ってきた時期もありました。学び始めてからの年月が、二十年前後の人達が大勢います。私達は、セミナー会場で、ともに汗を流し、涙を流し、本当に嬉しい時間と空間をいただきました。

しかし、現実には、他力のまま、学びにぶら下がっている人達も少なくはありません。また、これからは、学びから遠ざかっていく人達も、出てくるでしょう。学ぶ動機が違っていれば、いずれそのことがはつきりとしてきます。

いずれにしても、自分に起こってくる現象の中で、それぞれがそれぞれの心を見ていく学びです。

自分が、どのような思いで、学びをしているのか、瞑想を続けているのか、瞑想をする中で、

自分が自分に伝えてきたメッセージを、どれだけ真摯な思いで実践しているか、絶えず、自分の中で問いかげながら学んでいきましよう。

せっかく、この世に生まれ出てきたのです。生まれてきたかった思いを、誠実に受け止めていきませんか。

自分に真つ直ぐに、自分に優しく、そう、自分に限りなく優しく、この世に生まれてきたことを、ただただ喜んで過ごしていこう。

そして、瞑想をする時間を大切にしていきましよう。

田池留吉との出会いを、心から喜び、心からその喜びを味わって死んでいけたなら、こんなに幸せなことはないのではないでしょうか。

私は、自分のために生きることが、自分に優しく、周りに優しく、そして、地球に、宇宙に優しいと知っています。

だから、これからも、私は、自分のために生きていきます。自分が心から納得できる時間を、自分に与えてやりたいと思っています。

宇宙にあだ花を広げてきたけれど、今は、野に咲く一輪の花がいい。

凜^{りん}として自らを全うしていきます。

そして、宇宙のここかしこで、田池留吉、アルバートを思っている意識達に、思いを向けていきます。

二、井上中子さん、語ることができますか。苦しいですか。

異語。

私の祖母の井上中子という意識に、今、思いを向けています。

亡くなって、もう何年になるでしょうか。その意識に、私は、今、思いを向けています。

心を語ってください。何かを感じますか。苦しいですか。どんな状態ですか。

異語。

私の思いを聞いてください。

私のおばあちゃんです。私は、小さい時から、おばあちゃんに可愛がられてきました。おばあちゃんの家に泊まって、おばあちゃんのお布団の中で、おばあちゃんと一緒に寝たこともあります。

おばあちゃんは、とても優しくかったです。

そして、私は、セミナーで、おばあちゃんと一緒に、学ばせていただきました。おばあちゃんは、私にいつも、ただ、ありがとうだけを伝えてくれました。

アマテラスの神を求めて、その中に沈んできた井上中子の意識を感じてきました。私は、おばあちゃんが亡くなったとき、おばあちゃんに思いを向けました。思いを向け、私は、私なりに、ありがとうございます、その思いを伝えさせていただきました。

そして、今、あれから何年かの年月が流れています。

私は、あなたに、ほんの少しでも、温もりを伝えたいと思います。

私は、このように、今、肉体を持っています。今世の母に生んでいただきました。そして、あなたは私の祖母です。肉で言えば、そういう関係です。

しかし、私は、今、私が心で知ったこの世界を、ただただあなたに伝えたい。何かをあなたに伝えたい。あなたの心の中にほんの少しでもいいから、この思いを伝えたい。そんな思いで、私は、今、あなたに心を向けています。

異語。

苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、苦しい、苦しい。

苦しい中に私はいません。お母さん、苦しいです。今、私は、何かを感じています。だけど、この苦しみは、私の中から取ることができません。私は、苦しい中にいます。重い、重い私がいるんです。重い、重い、重苦しい中に私はいます。

今、私は何かを感じていますが、まだまだ苦しいです。

はい、私は何なんですか。私は誰なんですか。私のこの心の中に、何を伝えてくれるのですか。

苦しい、苦しい、苦しい。これが他力だと言うのですか。このエネルギーは私が作ってきたエネルギーなんですか。

そのように伝わってきますよ。あなたは間違ってきたんですよ。あなたは、本来は優しい、優しい温もりの世界、軽い、軽い世界にあるんですよ。

私にそのように伝わってきますが、私の中は苦しいです。苦しいです。

本当に私は苦しいんですよ。苦しい、苦しい、苦しい、苦しいです。

私は本当に苦しかったです。

異語。

井上中子さん、心の中に、少しだけ、少しだけ伝えさせていただきました。苦しいあなたの意識を感じています。ああ、しかし、私は、あなたの中に、喜びを、温もりの世界を、はい、少しだけお伝えしました。その温もり、喜びの世界があなたですよと伝えました。この思いを、あなたの中で感じることをしていつてくたさい。

難しいですか。難しいでしょう。

でも、でも、本当に、私はあなたに伝えたいんです。あなたに伝えたいんです。心の中にある喜び、温もりの世界を心で伝えたい、そんな思いが広がっていきます。

井上中子さん、心の中に呼んでください。お母さんをお呼んでください。

異語。

お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、おつかあさん…ああ、お母さん、お母さん、お母さん、ああ…おつかあさん。

はい、少し、心が広がっていきます。お母さん、あなたを呼ぶとき、少しだけ楽になりました。温もりが伝わってきます。お母さん、あなたの思いが伝わってきます。お母さん、お母さん、お母さん、お母さん…。

異語。

田池留吉、アルバート。私は、今、祖母のほうに思いを向け、心と心の通信をしたように思います。

何かが伝わったように思います。祖母の意識は、母をお呼んだように思います。心の中に

何かが伝わった、今、私は、そのように感じています。

心と心の中で通じ合わせることを、今、私は、実感しています。

私は、今、そんな学びをしているんですね。田池留吉、アルバートありがとうございます。心を田池留吉、アルバートに向けるとき、私の中の喜びが大きく、大きく膨らんでいき、温もりの世界を本当にお伝えしていけることを感じます。

信じれば信じるほど、この喜びが膨らんでできます。喜びが膨らんでくればくるほど、またまた信が深くなります。そして、私は、この喜びと温もりをお伝えしたくなります。すべての宇宙にお伝えしたくなります。こうやって、私は、この肉を活かし、自分の思いを大きく広げていくことができます。

宇宙に広がる喜びの学びでした。宇宙に広がる喜び、宇宙に向けて、セミナーが開かれています。

心の中に喜びが伝わってきます。ありがとうございます。宇宙の中に喜びを伝えていく私の命。命を繋いでくれた意識。嬉しいです。お母さん、ありがとう。田池留吉、アルバート、ありがとうございます。ありがとうございます。

三、私の本当の勉強は、田池留吉の肉がこの世から姿を消したときから、実質始まります、と私は、常日頃から感じていました。

自分の中に伝わってくる田池留吉の世界、その意識、宇宙からのメッセージを、私自身、さらに集中的に聞いていくでしょう。

中心棒の確立、いわゆる自己確立、私は、喜びで、さらにその作業を続けていき、そして、これからの時間、二五〇年に至る時間を経て、劇的な再会となります。

予定通りの仕上がりを、今、私は、自分の中で本当に喜んでいきます。

遥か彼方からの時を経て、ようやく、ここまでやってきたのだから、それは大変な喜びです。真実の意識の世界とともに学ばせていただいたこと、私は、本当に喜んでいきます。

これから、あと少しかもしれないませんが、田池留吉の肉とともに学ばせていただけることを、喜んで、喜んでいきます。

喜びの中で、そして、淡々と真実の世界を感じ広げていくことが喜び、そのような時間を積み重ねていこうと思つていきます。

四、塩川真太郎さん、あなたがその肉を捨てて、もう十年の年月が流れています。私は、当時、あなたの意識とともに、学ばせていただきました。

私は、今、あなたの意識に思いを向けています。

私は、当時から今に至るまで、自分の心を見る、そして、母を思い、自分の中に温もりの世界、広い、広い温もりの優しい世界、本当の自分があった、その真実の世界を学んできました。

確かに心に伝わってきた世界があるんです。温もりの世界がありました。私の中に温もりと喜びと優しい、優しい母の中に生きてきた私を感じてきました。今、そのほうに思いを向け、あなたと語らせていただきたいと思っています。

心に向けてみます。

異語。

分かりますか。あなたに語りかけています。温もりの波動です。私は、あなたに思いを

向けています。

異語。

お父さん、私は、あなたの意識に思いを向けてみました。何かを語りたい、語りたい、語りたけれど語れない、重い、重い、とても重い世界にいることを感じます。

だけど、私は、あなたに、あなたは温もりなんです。心の中に温かい優しい思いがあるんですよ。そうやって、私は、あなたに伝え続けます。これからもあなたに伝え続けます。お父さん、あなたを思うとき、私は、ありがとうの思いだけしか出てきません。

どうぞ、心を開いていってください。自分の心を開いていってください。

異語。

「神を求めてきました。心を縛って生きてきました。冷たく切り裂いてきたこの心の中に、冷たい、冷たい私があった。苦しい私があった。自分を殺して生きてきました。」

父の意識が、苦しい中から、少しだけ語ってくれました。父の意識から、修行というものが伝わってきました。語れない世界から、少しだけ語ってくれたことが、嬉しいです。意識が、ほんの少しでも温もりを感じてくれたのかもしれない。

私は、またもう少し時間を空けて、父の意識に語りかけたいと思っています。どのようにな変わっていくのか、変わっていくということは、そこにエネルギーが作用しているのです。そのエネルギーを、自分の中で感じていく学びをしていきます。

父は、田池留吉の肉を知りません。先生の声は、一度だけ電話を通して耳にしました。その意識が、これからどのように変わっていくのか、私は、自分の心で、この実践を通して学ばせていただけることを嬉しく思います。

人はやがて死んでいきます。自分の死後はどんな状態でしょうか。死んでもなお語ることができるでしょうか。

五、私は、自分に温もりを伝えてきました。温もりの私が私だと心で知りました。その私から流れる波動、エネルギーは優しさ、温もりです。

温もりに背き、温もりを捨て去ってきた自分に、温もりの自分を蘇らせたことは、ほぼ奇跡に近いです。

もちろん、奇跡ではありません。計画通りです。

なぜならば、真実を伝えてくれる意識が、この三次元に降りてきたからです。奇跡に近いことだけど、真実との出会いは必ず起きる、それが真実の世界が、今世、肉を持った所以です。

真実の世界が肉を持つということ自体が、もうすごいことなのです。

瞑想を重ねていけば、それを心を感じるでしょう。

そして、それは、同時に、真実を探し求め続けてきた思いの深さを物語っています。

出会うべくして出会ったこと、そのことを心で感じた時点で、もう決定的でした。私は、真実とともにある意識だ、目覚めから、その思いのパイプを太く強くしていく方向に、私は、着実な歩みを進めています。

肉を持ってする学習時間が、僅かに迫っていることを感じる心には、ただ喜びだけが広がっていきます。

田池留吉の肉、そして田池留吉の意識とともに学ばせていただいたてきた今世の学習時間は、予定通りの成果を得ました。

あと残された私の学習は、肉を離れた田池留吉の意識とともに、まさに田池留吉の世界を感じていくことです。

田池留吉の意識が語ってくる世界を、心で受信して、その意識と繋がっていることを心で確認しながら、やがて、自分のこの肉を終えていくでしょう。そこから先は、本当に心と心だけの世界です。

六、自分しか存在しない世界に帰っていく、肉を離せば、自分だけの世界があるだけです。

死んだということもなかなか気付けないでしょう。気付けないまま固まってしまいます。

あるいは、自分は死んだんだと思った瞬間から、グワッと自分の闇のエネルギーが覆いかぶさってくる、それが死後の現実だと思えます。冷たくて、重苦しい中に自分を沈めてし

まい、そのまま固まってしまいます。語ることなど、到底できないでしょう。

このことを、念頭に置きながら学びをしていきましょう。

いったい自分の意識の世界がどのような状態であるのか、自分の中で確認しながら、今の時間を過ごしていくことが肝要だと思います。

その確認するチャンスが、これからそれぞれの周りで現象化してきます。

それらの現象とともに、自分をしっかりと見つめていくだけです。その時には、もちろん、田池留吉の肉はないでしょうし、ただ、自分を見つめていくだけです。喜びで自分を見つめ、自分を見つめながら喜びを感じていく、それが次の転生に心を繋いでいく一歩です。

七、瞑想をする時間がある、これは、自分にとって一番幸せなことですね。

自分を思えるなんて、本当に幸せなことだと思います。

自分を思えば嬉しい、お母さん、ありがとうの思いが自然に出てきます。

瞑想、何も構えてすることではなくて、目を閉じて思うだけです。

心に響いてくる波動があります。心に伝わってくる波動があります。

心の針が、360度色々な意識達と通じます。

地獄の奥底うずくまに蹲うずくまっている意識達も、宇宙にさ迷っている意識達も、私には、恐怖でも苦しみでもありません。伝わってくるものは、重いとか、苦しいとか、寂しいとか冷たいとか、そういう波動だけど、私には、それらがみんな温もりに包まれていることが感じられるのです。

温もりの中にあるから、瞑想をして、それらの意識達に心を向けることが、嬉しいです。私の中から温もりと優しい思いが溢れ出ていくのを感じます。

八、自分の中に温もりと優しさがあるから、私はそこに帰っていけばいいだけです。帰ってきてなさい、帰っておいで、何度も呼びかけてもらいました。

そんな自分と、今、出会っています。

一時間瞑想の復活を、私は私に伝えました。私の中がそう望んでいるんだと感じました。喜びの世界へ、温もりの宇宙へいざなう思いが、肉に伝えてくれました。自分に伝わってきたメッセージは、できる限り忠実に実践していきます。

瞑想は喜びですと心から思える私は、幸せです。

目を閉じて思いを向けていける、静かで穏やかな時間と空間が与えられている、こんな幸せはないと思います。

幸せを感じるのに何も要らなかった。本当に要りませんでした。

私の世界が幸せでした。私の世界が温もりでした。

九、はい、本当に瞑想をすることは楽しいです。次から次へと喜びが出てきます。次から次へと私が私に伝えていく喜び、この喜びが心に響いてきます。嬉しいです。私の中で、喜びで喜びを伝えていく、そんな時間が瞑想をする時間です。今、私は、その時間を持つことが幸せです。

ああ……、ああ……、心が解き放たれていくことが分ります。

ああ、温もりを感じて、心が解き放たれていくんです。

私は、それを宇宙の喜びと伝えてきました。

言葉は何だっがいいんです。ただ心が自由に羽ばたいていく喜び、幸せです。

田池留吉、私は宇宙を感じて嬉しいのです。田池留吉の世界に心を向ければ、宇宙、宇宙が出てきます。宇宙の喜びを感じられます。

「田池留吉、ありがとう」、この思いが、自分の宇宙から返ってくるんです。この返ってくる思いを私は心で受けています。ああ、私が喜んでるんだなあと思います。

お母さんの温もりの中に帰っていく宇宙が、ひとつ、ひとつ、ひとつ、ひとつ、喜びを伝えてくれます。次から次へと喜びを伝えてくれます。

ああ、お母さん。お母さん、肉を持てたこと喜びです。肉を持てたからこそ、この喜びと出会えました。私の喜びの世界と出会えました。ありがとうございます。

一〇、父が死ぬ何ヶ月か前から、父の意識と学んできた思いが蘇ってきます。

私は、再び、父の意識と学びたい、そんな思いが、最近出てきています。

今日も、父の意識に思いを向けてみました。

塩川真太郎さん、私達は、みんな、みんなお母さんの優しい温もりの中にあります。私

達の本当の世界は、温もりの世界です。

自分を縛って苦しめてきた世界は、本当の世界ではないんです。

自分を殺して生きてきた、あなたの過去、あなたのたくさんの意識、その世界、神、仏を求めて、求めてきた世界、とても苦しかったですね。

母を捨て、母の温もりを捨て、一人寂しくさ迷ってきた世界を、あなたは、ずっと、生き続けてこられました。

そのあなたが、私達と時を同じくして、母から肉をいただきました。相変わらず、心を縛り、あなたは自分の穴蔵の中で、ずっとその生涯を過ごしてきたけれど、あなたの死ぬ直前、少しあなたは、温もりを感じられたはずですよ。田池留吉という世界、その温もりを、私は、あなたに伝えさせていただきました。

心からありがたいの思いを、あなたは肉を持っている間に伝えてくれました。そして、あなたはその肉を終えていきました。あなたは、あなたの世界へ帰っていったのです。

あなたの肉は、今はありません。しかし、私は、あなたの存在を感じています。心の中から、あなたに呼びかけています。私の思いは、あなたに、この温もりを伝えたい、そういうことなんです。

温もりを少し感じていたみたい。そして、そんな中にいることを、ほんの少しでもいいから知ってほしいと思います。

心を開いて、温もりが私だと、そのほうに思いを向けてください。

異語。

私は、あなたに今、呼びかけています。温もりの思いで、あなたに呼びかけています。何でもいいです。あなたを語ってみてください。

異語。

あー…、あー…、あー…、あー…、あー…、あー…。

あー、この重苦しい重圧の中にある。ああ、だけど、今、語れることが、う、れ、し、い。はあー…、はあー…、ああー…。

す、こ、し、い、きができません。はあー、息ができます。はあー、はあー、はあー。

ああー、ああー、ああー、ああー、はあー、はあー。

はい、ほんの少しでもいいです。あなたは、重くて狭くて暗い世界にいるけれど、開いた温かな明るい世界があることを、知ってください。

私は、伝えていきたいです。私も、そんな中にいたからです。

私はあなた、あなたは私。私は優しい思いをすべての意識達に向けてまいります。

ああ、お母さん、ありがとう…、ああ…。

異語。

ああ…、田池留吉、嬉しいです。心に向ける喜びを感じています。

田池留吉、私は、暗い、暗い真つ暗な世界に心に向ける喜びを感じています。自分の中に、本当の喜びと温もりを知った心の中に、暗い、暗い、真つ暗な、それこそ、息もできないほどの地獄の中にある意識達に思いを向ける喜びを感じています。

はい、伝えたいです。どんどん伝えたいです。心に向けていきたいです。

心に向けていけばいくほど、私の中に喜びが伝わってきます。

深い、深い、喜び、優しい、優しい、本当に優しい思いが伝わってきます。とっても嬉しいです。はい、どれだけこの時を待ってきたことか。はい、心の中から突き上がってくる思いは、待ち望んできた思い、意識達の喜びです。ああ……、ああ……、ああ……。

一一、私達は、こんな幸せな時を過ごしたことがない。こんな幸せな時を過ごしたことはない。そう伝えてくる思いは喜びです。

温かい温もりの中にいざなわれている幸せ、喜びを伝えてきます。

田池留吉、心を受けると、温かい、温かい温もりと、広い、広い世界が、心を埋め尽くします。心の中に、田池留吉。その世界が私の中にあります。私は、嬉しい。心をどんどん向けていける喜びを感じています。

心の中に、お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、そうやって私は、お母さん呼び続けていました。

こんな私がいたんですね。ああ、温もりに帰りたかった私達がたくさんいることを感じます。私は、その自分を小さな中に押し込めてきたことを、ようやく、今世、知ったのです。心で知ったのです。

私は、自分を解き放つことをしてきました。

「はい、あなたも喜びです。温もりです。私はあなた、あなたは私。温もりに帰っていきましょう。お母さんのところへ帰っていきましょう。」

優しい思いを伝えてきました。

心の中は、どんどん変わっていききました。宇宙は、喜んでいることを、私の心は感じてきました。そう、宇宙は、喜んでいる。田池留吉、心を向ければ、宇宙は、喜びに変わっていくことを、私は感じてきました。宇宙の喜びを、ずっと、ずっと伝えてきました。

限らない喜びが私の中で広がっていききました。

これは、これから、ずっと、ずっと続いていくんです。私は、そのように感じていきます。この肉をなくした後、私は、田池留吉、アルバート、その意識、その宇宙を呼ぶでしょう。私の中に今の喜び、温もりが広がっていくと思います。私の中で、次から次へ、暗い思いが喜びの中に包まれていくんです。私は、それを繰り返し続けていきます。

これが私の喜びだと心で感じています。田池留吉の波動に出会わせていただきました。田池留吉を心から呼べる幸せを、今、私は、肉を持ちながら感じています。お母さん、ありがとうございます。

一一、お母さん、はい、田池留吉の世界を感じています。ありがとうございます。今、私は、その世界を心で感じ、あなたにありがとうの思いを伝えています。お母さん、本当にありがとうございます。心の中に広がっていく優しさで温もりの世界、あなたに伝えていただきました。田池留吉の世界を、どんどん進んでいきます。私は、あなたの思いの通り、この世界を自分の中に、広げていきます。

心の中に真実の世界を広げていけること、喜びです。

お母さん、ありがとうございます。来世の私が、また母の意識から生まれてきます。今、来世の私もあなたに伝えています。お母さん、ありがとうございます。苦しい私をあなたにぶつけてきます。私は、自分の中にしっかりとした喜びを知って、この思いをぶつけていきます。お母さん、受け止めてください。私は、あなたに苦しい思いを、ありったけの思いをぶつけて

いきます。それが私の来世です。喜び溢れる私を爆発させるために、あなたにぶつけていきます。喜びで、喜びであなたにぶつけていきます。

来世の私のメッセージ、今、あなたにお伝えることができることが喜びです。

田池留吉の世界を感じている私は、喜びです。大きな喜びの中にあります。今世の私といつしよに来世の私も伝えていきます。田池留吉の世界を感じていこう、ともに、ともに感じていこう、そのように私達は伝えていきます。

一三、田池留吉の世界と心をひとつにして、その世界に思いを向けていける喜びがあります。それは、同時に、自分の中を見つめていく喜びです。

田池留吉の世界を感じているからこそ、自分の世界をどんどん感じていけるんです。田池留吉の世界と自分の世界、ひとつに重なったところで、私は、今、喜びと幸せを感じています。

その世界に生きてきた私の中は、喜びでした。お母さんの温もりの中に包まれていた喜びと幸せ、そんな世界を感じています。

田池留吉の世界、心で感じていけること喜びです。

アルバートの波動の中にいざなわれている意識、そう私達は、その宇宙を今、心に感じています。

アルバートの宇宙、田池留吉の宇宙、その世界を感じています。

待つて、待つて待ち望んできた田池留吉の世界でした。

その世界を、今、心に広げています。大きな温もりと優しいいざないの中で、心をゆったりと広げていける今を喜んでいきます。

一四、広い、広い、とらわれのない世界、自由に羽ばたいていく世界、そんな世界が田池留吉の世界。その中に自由に羽ばたいていける喜び、温かい温もりの中にある優しさ、言葉で表現するならばそんな世界です。

田池留吉、アルバートと呼べる幸せを感じています。

心に何もありません。何のわだかりも何も無い。ただただ喜びが、静かに、静かに広が

っていく…。温かい優しい温もりが広がっていく…。そんな中にいるんです。

目を閉じて心を向ければ、そのような世界に通じています。私は、幸せです。私達は幸せです。どこまでも、どこまでもこの喜びと温もりの世界にある私達なんですね。私は、自分の中にこの世界を広げています。

宇宙が語ってくるんです。宇宙が語ってくる喜びを感じています。

宇宙に思いを向けると、異語が自然と出てきます。異語でリズムを語っているんです。異語で語り合う喜び、そんな喜びの中にあります。

異語は喜び、喜びの波動、喜びのエネルギーです。

田池留吉、その世界、その宇宙の中にある喜びを、異語で奏でます。このリズムに乗って、私はすべての宇宙に伝えています。波動を伝えています。心の中に、田池留吉、アルバートを思い出していきますよう、そのように伝えていきます。

軽やかに、軽やかに飛んでいる意識。その意識の中にある私達。

その意識が肉を持ったとたんに苦しく、苦しく、重く、重く、閉塞的な中にあるんです。その違いを心で感じています。

ああ、肉って重いものなんだなあ。肉の世界って重いものなんだなあ。そんなことを感

じています。

私達の宇宙には、とてもとても大きな温もりと喜びの世界があるんです。そのような
ざないの中にある私達です。今、私は、ともに心に向けよう、合わせよう、そうやって呼び
かけています。これが私の宇宙です。

今、私は、喜びで伝えています。田池留吉の世界は、そんな世界ですよと伝えています。
心の中に感じていけること喜びです。喜びが喜びをいざなってくる、それが田池留吉の世界
です。

一五、私は、瞑想をする時間がとても嬉しいです。幸せを感じる時間が瞑想の時間です。

田池留吉、私の中にお母さんの優しい温もりを感じます。

宇宙に向けて思いを語るとき、その温もりが心に広がっていきます。

本当に優しい宇宙でした。お母さんの温もりの中にあつた宇宙でした。

こんな宇宙を、私は忘れ去ってきたんですね。

お母さん、今、あなたに思いを向けています。田池留吉に思いを向けています。優しいです。とても嬉しいです。穏やかに心が広がっていきます。

何もありません。ただただ穏やかに、静かに心が広がっていきます。

そんな中にあるんです。その中で、私は自分を語ります。

嬉しい、ありがとう、お母さん、ありがとう。

喜びと温もりが心に広がってくるよ。

お母さん、ありがとう。優しい私が待っていました。本当にこんな世界がありました。

優しい私を手を広げて待ってくれていました。

はい、嬉しい。お母さん。田池留吉。

優しい、優しい世界、温もりの世界を伝えていけること喜びです。

田池留吉の世界に心を向けること喜びです。

ひとつ、ひとつ、ひとつの喜びを伝えています。田池留吉、私は田池留吉の世界とひとつ。

はい、ひとつです。

一六、私は、それぞれの生活の場で心を見ながら、そしてお母さんを思い、田池留吉を思い、瞑想をしている学びの友達を思えば嬉しいのです。

セミナー会場で、一言も話したことがない人であっても、そうやって、田池留吉を思い、自分の過去を思い、自分の未来とともに瞑想を続けていこうとする友がいる。私は、ふっとそう思えば、嬉しいなあと思います。

そして、宇宙を思えば、それは、それは嬉しいのです。

宇宙の彼方には、私の仲間が数限りなく感じられます。その意識達とともに、これからの時間を歩いていけると思うだけで、私は嬉しいのです。

ありがとう、田池留吉。その世界、その宇宙に、心向けること喜びです。喜んで、喜んで、ただただ私達の宇宙に喜びを伝えていきます。

そして、ともに歩いていきます。ありがとう。

一七、たったひとつの肉を通して、そう、肉を通して、私の世界、意識の世界を感じていける、肉を入り口として、私は、私を感じていける、こんな喜びはありません。

肉があればこそできる学びでした。そして、肉を離れたとき、私は、今、感じている世界を自分の中で、確認していきます。

肉を離して、私は私を確認していける道、それが私のアルバートへの道、アルバートとともにある私の道筋です。

田池留吉の意識、あなたはどのように伝えてくれました。

田池留吉の意識、田池留吉の世界に心を向けることは、容易ではありませんでした。

凄まじいエネルギーのもと、その世界に歯向かって、歯向かって、逆らって、温もりに背いて生きてきた意識の中に、田池留吉の世界を本当に思えることが、私には、今、本当に奇跡に近い。そんな思いが、やはり出てきます。

奇跡ではないと伝えてくるけれど、あなたが計画してきたことなんですよ、私が計画してきたことなんです、そういうふう伝えてくるけれど、私は、奇跡としか思えないほど、本当に嬉しいです。

ひとつの肉をもらってきたこと、この肉を通して感じてきた世界、感じている世界、これから感じていこうとする世界、すべてが、喜び、喜びに変わっていくんですね。

この喜びの思い、嬉しい思い、幸せの思いは、どんな言葉でも表現できません。

嬉しい、ありがとう、本当にありがとう、ただそれだけです。

ああそうでした。この喜び、幸せの思いは、波動として流れていつているんですね。

宇宙を思い、宇宙に語りかけるとき、喜びにいぎなわれて、喜びが返ってくる、それを、私は、自分の心の中で確認していけばいいんです。そして、また喜びを返していく、そんな中に、私はありました。ありがとうございます。

一八、私は、宇宙を呼べる仲間と語り合いたいという思いが、ずっと以前よりありました。宇宙を思い、ともに心を向ける喜びを感じ合いたい、そんな思いが心の底にありました。宇宙からのメッセージは、そんな思いで続けてきました。

今も宇宙からのメッセージが届いています。宇宙は喜んでいて。宇宙の喜びをもっと伝えてくれ。私達の思いをもっともって伝えてくれ。そんな思いを感じています。

宇宙と語り合うことが喜びだと伝えてきました。

暗黒の宇宙は喜びなんです。とてもとても喜びなんです。

その思いを私は心に伝えてきました。そう、波動の世界の中で宇宙と語り合える喜びを

伝えてきました。今も伝えていきます。

田池留吉に心を向けるとき、宇宙が飛び出し出てきます。

宇宙を思えば、喜び、幸せ、そう語れることが喜びなんです。

この喜びは尽きることはありません。どんなに語っても語り尽くせないほどの喜びが心から溢れてきます。

田池留吉の世界を感じていくこと、喜びです。宇宙を感じていくこと、喜びです。

すごい世界が私達を待っています。それが、これからの二五〇年、三〇〇年の時間なんです。

私達は、その喜びを今お伝えしています。心から私達と語り合っていていけることを私達は待っているとお伝えしています。

どうぞ、心を田池留吉の世界に向けていってください。

己を誇ることなく、田池留吉の世界を感じていける喜びを知っていってください。私は、今、そのように伝えていきます。

一九、目を閉じて思うだけで嬉しい。異語が飛び出してきて、そして、私は、その異語に思い

を向け、私は私を感じています。

とても嬉しいです。田池留吉、アルバートを思うと、本当に嬉しいです。

今、私は、自分の心を語っています。嬉しい、嬉しいって、私は、語っています。

田池留吉、本当にありがとうございます。お母さん、ありがとうございます。

私は、私の中に帰っていきけるんですね。こうやって、私は私を語り、そして、私は私の喜びを感じていく、田池留吉、アルバート、その意識とともにひとつになつて、私は私に帰っていく、その道筋にあります。

今世の喜びは、本当に大きなものです。肉を持った今世、大きな喜びを心に得ました。いえ、もともとあつたのです。それに気付いただけです。

今、私は、自分を語っています。はい、心から、思いが飛び出てきます。

異語を語れば、私の喜びは、さらに大きくなります。

異語で宇宙を語るとき、喜びが宇宙へ流れていく、そんな波動を心から流していきけることが、喜びです。

ありがとうございます、ありがとうございます、そうやって、田池留吉は伝えてくれます。

ありがとうございます、ありがとうございます、出会いをありがとうございます、あなたとの出会いを待っていました。あ

りがとう、ありがとう、田池留吉はそう伝えてくるんです。

ああ、嬉しいです。本当に嬉しいです。ありがとうございます。

二〇、伊藤勘治さん、分かりますか。私は、塩川香世です。今、あなたはどのような状態でしょうか。語るができますか。

どうぞ、思いを向けてみてください。

異語。

ああ……。私は、……。はい、何か……。何か……。何かを感じるんです。私は、どこにいるのか分かりません。

はい、私に、何かを聞いてくれているみたいです。あ……。あ……。はい……。はい、私は、何かを感じます。今、何かを感じます。

ああ、私は、重く、重く沈んでいるような気がします。

伊藤勘治さん、あなたは、その肉体は、もうありません。あなたは、今の思いがあなたです。肉体はもうないので。しかし、あなたは、何かを、今、感じられたと思います。そうです、あなたは、そこにいるんですよ。確かに、あなたはいるんですよ。あなたの肉体はないけれど、あなたは感じる事ができるのです。私は、塩川香世と言います。あなたに、今、思いを向けています。私の思い、つまり、私は思い、あなたと同じ、肉体はありません。肉体がない私が、今、あなたに思いを向けています。

どうでしょうか。どんな感じでしょうか。

異語。

はい、ああ、心と言うんでしょうか。私に何か伝わってきます。重い、重い中にある私に、ふつと何か感じます。

はい、この思いを、私は、知っています。何か知っている。ああ、ああ、しかし、今、私は、その何かが分からない。しかし、この思いを、私は知っている。そんな気がします。

異語。

伊藤勘治さん、あなたが知っているという思いは、あなたの中の温もりです。私達は、あなたの中の温もりを、今、伝えました。

田池留吉の意識を伝えました。心が知っているのです。あなたの心は知っているのです。

はい、嬉しい。嬉しい。おつかあさーん。ああ。ああ。

伊藤勘治さん、今、あなたに伝わった思い、そうです、あなたですよ。

暗く重いのはあなたではありません。そのことを、私達は、伝えなかったのです。心の中に温かい思いがあることを伝えなかったのです。

異語。

はい、お母さん、ありがとうございます。(二〇一〇年二月四日)

伊藤勘治さん、分かりますか。伊藤勘治さん、私は、あなたの肉体は、もうないことを伝えました。今、あなたの思いを語ることができますか。

あなたの肉体は、もうないんです。分かりますか。

ああ、お母さんはあー……、はあー……。ああー……。はあー……。ああー……。

異語。

伊藤勘治さん、分かりますか。あなたは、意識、形はない。しかし、あなたはそこにいます。今、あなたの中に語りかけています。私達は温もりです。お母さんの温もりです。私達は、今、あなたに伝えています。呼びかけています。私達の思いが届きますか。はい、あなたの中にある優しさを知ってください。私達は、あなたの中の温もりです。

異語。

私の心の中に温もりがあるのですか。ここはどこですか。暗くて、冷たくて寂しいです。しかし、私は、今、何か語っています。暗くて、寂しくて、はい、とても苦しい中にいます。しかし、今、心を語る事ができる。はい、私は、はい、とても苦しいです。とても苦しいです。私は、どこにいるのか分からない。今、私は語っているのが私なんですか。心とは何ですか。私は、私は、今、どこにいるんですか。どこにいるんですか。

伊藤勘治さん、あなたは、あなたの世界にいるんです。あなたの世界、つまり、あなたの中にいるんですよ。あなたは、今、とても暗くて苦しくて冷たくて寂しい中にいます。しかし、それは、あなたではありません。私達に思いを向けてください。心の中に温もりが広がっていくのがあなたなんですよ。そのあなたをあなたは知らずにきたのです。思い出してください。心の中に安らぎがあります。

異語。

私は、語りたい。もっと、もっと語りたい。心から語りたい。何かを語りたい。はい、ああ、温もりが私なんですか。私は、辛くはないんですか。苦しくないんですか。冷たくて寂しい私があります。しかし、温もりが、少し、少し、優しさを感じます。はい、お母さんと呼べることが、少しできる。お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、はい、私は、母を呼んでいます。母を呼んでいる。苦しい中で母を呼んでいる。今、私の中に、優しい思いが感じられる。

異語。

私達は、あなたに伝えます。あなたが今、呼んだように、あなたの中に母を呼ぶ思いがあるんです。心の中に安らぎ、温もり、そうそんなあなたを思い出してってください。はい、私達は、温もりをお伝えします。

異語。

田池留吉、私は、今、意識を向けさせていただきました。肉を亡くした意識の中に、思いを伝えさせていただきました。

田池留吉、私は、あなたの思いを伝えさせていただきました。

私達は、温もりですと伝えさせていただきました。この心の中にある思いが通じることを感じます。心に喜びがあります。私の思いは、喜びです。田池留吉、はい、このように語らせていただいています。

私は、今、意識を感じています。意識を感じている。肉を亡くした後の私の意識を感じています。私は、今、このように語らせていただいています。

私は、田池留吉、アルバート、そう私は、こうやって私を感じていくんですね。私は、肉を亡くしても、こうやって、田池留吉の世界を感じていけることを確認させていただきました。(二〇一〇年二月十九日)

二、宇宙を思い、瞑想を繰り返ししています。ただ宇宙を思い、瞑想を続けています。目を閉じて、宇宙を思います。お母さん、あなたに思いを向けています。宇宙と言えば、あなたです。お母さんの温かい、温かい温もりの中を感じています。宇宙は喜び。宇宙は温もり。そんなあなたを感じています。

心の中に、田池留吉を呼んでいます。田池留吉の宇宙を呼んでいます。

田池留吉の宇宙は限りなく広く、広く、広く、私の中を埋め尽くしていきます。どんなに凄まじいエネルギーでも、私は、喜びで受け入れていきますと伝えてきます。

田池留吉の宇宙は喜びを伝えてきます。田池留吉の宇宙は、凄まじいエネルギーを喜びに変えていく、そんなあなたを待っていましたと伝えてきます。喜びです。喜びです。すべてが喜びです。田池留吉の宇宙からのメッセージ、喜びを伝えてきます。

数限りない宇宙に喜びを伝えてくれる田池留吉の宇宙でした。心を、今、真っ直ぐに、田池留吉の宇宙に向けています。

ああ、私の中に喜びが広がっていきます。ああこんなに喜びが溢れている、すごい世界を感じています。

明るい、明るい田池留吉の宇宙を感じています。心の中をしつかりと見ていくことを伝えてきます。

私の中に帰ってきなさい、そんな田池留吉の宇宙の呼びかけを感じています。すべての宇宙にこの喜びを伝えていきたい。心からそのように思います。

私は、田池留吉の宇宙を伝えていきます。心の中から伝えていきます。お母さん、ありがとうございます。お母さん、ありがとう。

二二、お母さん、ありがとうございます。ああ、お母さん、心に向けると、あなたの温もりが響いてきます。嬉しいです。思うだけで嬉しいです。母の思いに触れています。母の優しい、優しい思い、温もりの中にある私を感じています。

心の中に喜びが広がっていきます。ただただ喜びが広がっていく。ただただあなたの思いが広がっていくんです。私は、こうやって、時を過ごしていきます。お母さん、あなたに生んでいただいたこと、喜びです。

たくさんのお母さんを抱えています。みんな、みんな嬉しかった、お母さん、ありがとう、

私の中にその思いを伝えてくれるんです。

この思いをあなたに届けます。今、あなたに届けられること、私の喜びです。

私は、暗い、暗い真っ暗な自分とともにありました。今、私は、その暗い、暗い、真っ暗な私に喜びを伝えています。お母さんの温もりの中にあつたことを伝えています。そして、過去からの真っ黒な私達が喜びを伝えてくれます。はい、私は、この喜びを心に広げていきます。

温もりの中にあつた私を信じて、信じて、この喜びを広げていくだけです。心を宇宙に向ける喜びを感じています。だから、これからの二五〇年は、私にとって喜びです。

宇宙、宇宙、宇宙が喜んでいきます。

宇宙の喜びを、今、心に感じています。どれだけこの時を待っていたのか、私の中に、喜びが広がっていくんです。宇宙が喜んでいきます。

二三、目を閉じて思えば、お母さん、ありがとこの思いが出てきます。

私の中に、温もりが広がっていきます。私は、温もりの中に包まれています。だから、私

は自然に宇宙を呼んでいます。宇宙と呼べば、ただただ嬉しいのです。

思うだけでいい。思うだけで嬉しい。そして、その嬉しい思いが宇宙に流れていく。だから、瞑想をする時間は、とても大切です。

そう、瞑想をすることは喜びであり、幸せであると同時に、とても大切なことなんだ、私は、そう感じています。

田池留吉を思えば、その世界から温かい温もりと優しさが伝わってきます。

ともにある喜びを感じます。異語で私は、応えます。

はい、嬉しい、ありがとう。ありがとう。私は幸せです。

ともにあることを感じています。田池留吉、アルバート、私は、幸せです。

田池留吉、私は、宇宙を思えて幸せです。田池留吉、その宇宙を思えば、心がどんどん広がっていきます。そんなメッセージを伝えながら、私は、田池留吉の世界を感じています。

瞑想は幸せな時間。そして瞑想はとても大切な時間。

宇宙にメッセージを伝え、そして宇宙からメッセージを受け取る大切な時間です。

二四、ああ、お母さん…。温もりの中に広がっていく世界、ああ、お母さん、ありがとうございます。

心を、田池留吉の世界に向ける喜びを私は感じています。心の中に温もりが広がってきます。

幸せな時間をありがとうございます。田池留吉の世界に心に向ける私は、喜びです。

大きな、大きな世界、広い、広い世界です。どこまでも広がっていく世界です。そこには、温かい温もり、優しさ、そう私は、こんな優しい私の中にいます。

私は、今、その中で、たくさんの宇宙を呼んでいます。心の中に溢れくる喜びの思いを感じています。

宇宙に思いを向ける喜びを感じています。宇宙に向ける喜び、何度、何度感じても嬉しいです。

心に向けるたびに、嬉しさが増していきます。はい、私の中に宇宙があります。宇宙が喜び、喜びの宇宙とともに、これからも過ごしていく私の時間です。これが私でした。

田池留吉、ありがとうございます。地球上に肉を持たせていただきました。

これから、私は、この肉を通して、大きな喜びを伝えていきます。

波動として流れていく喜びの思い、そのエネルギー、仕事をしていくことを感じています。

田池留吉の世界とともに仕事をしていく私の意識の世界です

ありがとうございます。意識は流れています。喜びのエネルギーは、私の中から流れていきます。田池留吉の世界に心を向けるとき、そのメッセージが来ます。

田池留吉の世界を感じていくことが喜びです。喜びが喜びを大きくしていきます。私は幸せの中にあります。ありがとうございます。

二五、何物にも縛られない私の心、宇宙に広がる私の世界、意識の世界を感じます。心の中に宇宙を感じ、私は、喜び溢れる私を感じています。

真つ黒な世界を繰り返してきた私の中に、優しい、優しい母の温もりが届きます。宇宙が変わっていくことが喜び、私は、そのように伝えてきました。誰だれはまか憚ることなく、私の宇宙が変わっていくと素直に伝えることができます。

私の宇宙が変わっていくということは、意識の世界を変えていく大きな原動力となります。このエネルギーは、大きな、大きなエネルギーです。

私は、今世、日本の国に、ひとつの肉を持ってきました。田池留吉との出会いを果たすためです。田池留吉との出会いを果たすために、私は、この肉を持ちました。

お母さん、ありがとうございます。心の中に、田池留吉の世界を、私は、どんどんどん広げてまいります。それが、私の喜びです。

宇宙が喜んでいて、宇宙の喜びを私は感じます。

心の中に、宇宙を呼び起こすこと、それが、私のこれからの、大きな、大きな仕事です。そのために、私は、今世、田池留吉との出会いを自分の中に約束してきました。

アマテラスの国、日本において、私は、田池留吉の意識との出会いを心に誓ったのです。

まずは、アマテラスに伝えなければなりませんでした。

宇宙を大きく支配してきた、その覇権者であるアマテラス、その意識を変えていくこと、私は、この肉を通し、アマテラスのほうに、ずっと心を向け続けてきました。

アマテラスの意識の世界は、とても大きなものでした。冷たく、冷たくそびえ立った我一番の世界を宇宙に広げてきた、その意識達が、たくさん、この日本の国に、今世肉を持ち、田池留吉の学びに集いました。

私は、そのことを、しっかりと心に感じてきました。アマテラスの思いを見ていって

ださい。アマテラスに心を向けてきたあなたの思いを見ていってください。そのように伝えてきました。

これからも伝えていきます。アマテラスを自分の中で解き放していくこと、それが日本の国に肉を持つて、この学びに今世集つてきたあなた方の仕事です。アマテラスの心を心として生きていくことは、もう止めましょう。

アマテラスに伝えていくんです。優しい、優しい、お母さんの温もりを、アマテラスの心に伝えていきましょう。

アマテラスは待っています。私は、本当にこのことを伝えたかったです。

宇宙に飛び立ってきた私達の意識、その仲間。私達は宇宙に飛び立ってきました。もちろん、この宇宙には、私達の仲間がたくさんいます。

これから、二五〇年の間に、私は、その仲間達と交信し続けます。はい、とても嬉しいです。心を解きほぐして、自分の思いを語るとき喜びを、今感じています。

どんなになっても、私は、この思いを通していきます。

アマテラスの国、日本、日本の国が変わっていく、日本の国が崩れていく、そんな中で、私は、喜びを伝えていきます。どんどん喜びを伝えていきます。ここから喜びが広がってい

くのです。

宇宙全体に広がっていきます。地球はもとより、宇宙に広がっていく喜びのエネルギー、田池留吉の世界を、このように心で感じていく私の中に、もう何も思うことはありません。ただただ田池留吉の世界を感じていくことだけです。

私の中にあるのは、田池留吉、アルバート、その世界、意識の世界、真実の世界、ひとつとなつて進んでいくこれからの時間、私達は、本当に、喜び、幸せの道を邁進してまいります。

お母さん、ありがとうございます。

長きに亘つて、肉を私にくださいました。ようやく、ようやく、今世、私は、この肉を通して、真実の世界を感じています。

この肉を通して感じていく世界を、もっと、もっと見つめてまいります。

私の二五〇年後の肉に引き継ぐまで、私は、自分の中を見つめていきます。そして、二五〇年後に肉を持ち、私の意識は、その中に喜びを大きく伝えてまいります。

二六、私は、まさにこれから文字通り、田池留吉の世界を心で学んでまいります。

気負うことなく、頑張ることなく、淡々と瞑想を続けていきます。

心に感じられる世界は、確かなものです。

私は、宇宙とともに存在している意識、宇宙とともに喜びを共有していける意識です。

田池留吉の世界、その宇宙を、楽しみながら、喜びながら、宇宙とともに心を広げていくでしょう。

田池留吉、今世の出会いを本当にありがとうございます。

心からありがとうございます。

二七、瞑想、そうです。自分に優しい思い、温もりの思いを伝えられる時間です。だから、とても幸せです。喜びが溢れてきます。

田池留吉に思いを向け、その思いを、私は、私の中に伝えています。

私が私に伝えていく喜びと幸せを感じます。私の中に、喜びが溢れてきます。温もりが溢れてきます。

瞑想をする時間は、私を感じられる時間です。はい、過去からの私、未来の私、すべての私を感じられる時間です。

田池留吉を思い、私が私を思える時間、瞑想する時間は、そんな時間です。

温もりを伝えていく時間、幸せを伝えていく時間、喜びを伝えていける時間です。

宇宙に自然と心が向きます。私の過去の宇宙、未来の宇宙、今、宇宙が喜んでいます。宇宙に思いを向ける私は、喜びです。

過去からの宇宙が喜んでいて、こんなことが本当にありました。本当に嬉しいです。

田池留吉の世界に心を向け、宇宙を思います。

瞑想をしながら異語を語り、異語を語りながら瞑想をします。

心が、どんどん解きほぐれていくのを感じます。

お母さんの優しい中に、私の心は、ゆったり委ねられていきます。

嬉しい時間、幸せな時間が広がっていきます。瞑想をする時間は楽しいです。

二八、今世、重い腰を上げて、私はようやく、この学びに集いました。

肉の力を信じてきた私でした。そんな私が、ようやく、自分の中を見つめていこうと重い腰を上げて、自らの現象を通して、この学びに集えたのです。そのチャンスを、私は、これまで十分に活かしてきたと思います。

私の中に、自分を突き動かすエネルギーを感じてきました。

間違つてきた真つ黒な私を突き動かすエネルギーは、自分を変えていこう、自分の意識の世界を正しい方向に向けていこうと必死でした。

そのエネルギーが、この肉を動かしてきました。そのエネルギーを、私は、今、とても愛しく感じます。自分自身を愛しく感じます。田池留吉の世界に心を合わせ、心に向けていけばいくほど、私は私を愛しく感じます。

田池留吉の世界から流れてくるものが、私の中に染み渡っていきます。

温かい、温かい温もり、優しい思い、お母さんの優しい、優しい思い、その思いが、私の中を解きほぐしていくんです。

ありがとう、ありがとう、私の中が伝えてきます。

今世、生まれてきた私達は幸せです。今世、生まれてきて学びに集えた私達は幸せです。

学びに集う多くの人達は、おそらく、今頃は、この思いを確実に心に広げているでしょう。

だからこそ、今一步、あなたの歩みを進めていってください。

優しいあなた、温もりのあなた、そして真実の世界を本当に心に広げていこうと必死になつて、その肉を持つてきた自分自身の思い、その思いと、少しでも出会つていってください。ただそこに今あなたがあること、それをしっかりと心で感じていってください。感じていけば、どれだけ幸せの中にあるか、自ずと分かつてきます。

ともに、瞑想をする時間を持ちましょう。心をひとつにして、田池留吉の世界に心向ける幸せな時間を持つようにしましょう。

私は、今、とても幸せです。本当に幸せです。お母さんと心から呼べるからです。お母さんを心から呼べる私は、自分を感じることができません。

間違い続けてきた自分を感じることができません。こんな嬉しいことはありません。こんな幸せな時はありません。

どうぞ、瞑想をする時間を持つてください。瞑想です。自分を感じていく時間を大切にしていってください。

二九、 田池留吉の世界は、あなたの中の温もり、あなたの中の優しさ、あなたの中の喜び。瞑想をするたびに、このメッセージが伝わってきます。

本当にそうです。はい、ふっと田池留吉の世界を思う、思えば通じる世界です。

心の中の安らぎ、優しさ、温もり、お母さん、私は、心が広がっていくのを感じます。

広く、広く、穏やかに広がっていく、優しい思いを感じます。

この心で、自分を思えます。自分の宇宙を思える、だから嬉しいです。

心に響いてくるこの波動の世界、確実に伝わってくる世界です。

宇宙に思いを向けています。そうして、私の瞑想の時間が始まり、そして続いていくんです。異語とともに宇宙と繋がっていることを感じます。

宇宙が私に呼びかけてきます。私は、宇宙に呼びかけています。

私の中で、このように語らせていたただけなのが嬉しいのです。

宇宙と語り合うことが喜びです。だから、瞑想をする時間は幸せな時間です。

お母さん、自分を思い、こうして、瞑想をする時間を持つことが、幸せです。嬉しいのです。自分を思う時間、静かでゆったりとした自由な時間があります。

私には、最高の贈り物です。私が私に与えた贈り物です。

今世の私は、本当に幸せです。肉を持って、今、自分を思えることが嬉しいんです。

お母さん、あなたに思いを向けています。優しいあなたに思いを向けています。心の中に優しさが広がっていきます。優しいんです。

何も要らない、この優しさがあればいい。私は、そんな私を取り戻したかったです。その思いが、今世、実現しました。

瞑想をする時間の中で、私は、そんな自分と出会っています。お母さん、ありがとうございます。

三〇、お父さん、お父さん、はい、お父さん、あなたに、今思いを向けています。分りますか、お父さん。お父さん、何かを感じたら、どうぞ、あなたの思いを伝えてください。

私に心を伝えてください。私は、今、あなたに思いを向けています。

優しい、優しい思いで、あなたを思っています。

はい、ああ心に届く思いは、はい、何か優しい思いです。心に届きます。私の心の中に、少し優しい思いが感じられます。苦しい中にある私に、優しい思いをかけてくれています。私を呼んでいただいてありがとうございます。

私を呼んでいただいて、ありがとうございます。心に優しい思いを感じます。ああ、お母さん、優しい思いです。ああ、ああ、はい、もつと、もつと、語りかけてください。優しい思いを私は求めています。苦しい中に、冷たい中に、小さな中に押し留まっている私です。しかし、心の中は、広いんですよ、そのように伝えていただきました。心の中は広いんですか。温かいんですか。私も、その中に連れていってください。私は、冷たくて苦しくて小さくて、悲しくて、寂しい中にいます。私に、思いを向けてくださって、ありがとうございます。優しい思いが届きます。お母さんの思いかなあ。私は、今、心に感じています。ありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。

自分を縛って生きてきた私の中、私の中が間違っていた。苦しい中にありました。心を語りたい。もつと、もつと心を語りたい。語らせてください。

はい、安らぎがほしい。温もりがほしい。私は、すべてを切り捨てて生きてきました。心

の中は、真つ黒になつてしまいました。そして、私は、ひとりの世界に蹲うずくまつてきました。それが、とても苦しかったです。

苦しい心を抱えて、何度も、何度も転生を繰り返してきました。

はい、私は、そう、苦しい中を生き続けてきました。お母さん、ごめんなさい。はい、あなたの思いに背いて、私は、苦しい転生を繰り返してきました。

はい、神を求め、仏を求め、心の中を縛り続けてきました。自分を見限つてきました。自分を蹴散らしてきた。心の中に、優しさがなかった。温もりがありませんでした。すべては私の過ちでございます。

私の過ちを、私は、自分で受けてきました。

心を切り裂いてきた波動の中で、私は、苦しみ続けてきました。

心を語ることなく、ずっと、ずっと、存在してきました。今、心を語れることが嬉しいです。心を語りなさい。はい、そう言われることが嬉しいです。何かを感じます。心の中に安らぎがありました。温もりがありました。心を語る私がいいます。私がいいます。私はここにいます。存在しています。私は私の中にありました。

今、今、心を語るとき、私が私の中にいた。苦しい私も、悲しい私も、冷たい私も、私

の中にありました。それが私でした。

今、あなたの中に、優しさと温もりが届いていますかと私は聞かれました。聞かれて私は、はい、優しい思いを感じます。温もりを感じます。

だから、このように語れるのです。嬉しいです。ありがとうございます。もっと、もっと、語りたい。私をもっと、呼び続けてください。お願いします。心を語ることが喜びなんです。嬉しいです。心を閉ざして生きてきた私の心の中は、苦しくて重くて真つ暗でした。そして、今、心を少し語らせていただいて嬉しいです。心が少し軽くなりました。

私は、父の意識と語り合っています。父の意識の世界ということは、過去からの私の意識の世界です。私達は同じ意識の世界にありました。苦しい中にありました。私の過去からの意識の世界、ともに温もりを、心に届けられる今を喜んでいきます。

苦しい中を生き続けてきた意識の世界でした。

今世、私達は、親子の縁を持ち、その世界を互いに見させていただきました。そして、私は、その中から学んでまいりました。心を解き放つ喜び、自由に語れる喜び、自分を自由に解き放つ喜び、自分の中に温もりと優しさがあつたことを知った喜び、この喜びを私は、学ばせ

ていただきました。苦しい、苦しい意識達に伝えていきたいです。もっと、もっと、自分が優しくなって、温もりを伝えていきたいです。

田池留吉の世界に心を向けると、私は、この思いが出てきます。

田池留吉の世界に思いを向けると、私の中に思いをもっと、もっと向けていこうとする私があります。心の中の優しさ、温もり、田池留吉、アルバートとともに喜びへ帰れる日を、私達は待っていますと、そのように伝えていきたいです。本当にありがとうございます。私は、今、肉を持ってこのように学ばせていただいています。

これが私の計画です。これが、私のこれからの学びです。

本当に自分の中を包んでいく喜び、幸せ、それは田池留吉の世界を心に感じていかなければできないことです。

心の中に私は、温もりと安らぎ、優しさと呼び起こして、どんどん伝えていくこれからの時間です。

田池留吉の世界に心を向けられること、最高に幸せです。心を解きほぐしていくこと、最高に幸せです。喜びが喜びを生んでいきます。

三一、私が、父と語り合いたいという思いが強いのは、確かに肉の情という部分もあります。

しかし、私が意識の転回の緒については、父の死という現象に間違いはありません。

それまでの私の学びが、その現象の中で方向を定め、そして、成果を現し始めたのです。

父の病氣と死は、私にとって、大きな一点でした。

斎場で、父を見送ったときに出てきた思いは、今も心にあります。

私達は、二五〇年後、アルバートと会いましょう、私は、そう思いを投げかけました。

自然に私の心からその思いが出てきました。

二〇〇一年のあの当時から、いよいよ私のアルバートへの道は走り出したのでした。

今、田池留吉の世界に心を向ける幸せな時間をいただいています。

田池留吉の世界を思い、宇宙を思う喜びを心で確信する道を、私は、一步、一步、歩んでいます。今世の時間、可能な限り、私は私の中を見て、感じて、そして、真実の方向へさらに歩みを進めていこうとしています。

それが私だからです。それが私の本当の思いだからです。

田池留吉の肉、意識、私の肉、意識、すべてが、ともに、ともに学ばせていただけることが、

本当に嬉しいです。

三三、本当の自分の思いに従って、時間を過ごしていけること、これほどの喜びはないと思います。これほどの幸せはないと思います。

みんな、本当の自分の思いを心に秘めています。しかしながら、その思いを実現できません。現実のものとして、自分の中に広げていけない苦しさがあります。それは肉の思いです。肉の中で幸せや喜びを見出していこうとする思い、それは本当の自分の思いと反しています。

どれだけその身を誇っても、どれだけその身が立派であっても、そして、喜びを感じていつても、本当の思いにそぐわなければ、心は苦しいです。

今、私は、本当の自分の思いに沿って、生活を進めています。すべてがその方向に進んでいっています。本当の自分の思いに従って、肉を進めていく、これは難しいでしょうね。

心に秘めた思いを現実のものとしていく、実現させる、それには、私自身も、長い、長い時間を経てきました。たくさん現象を経てきました。

遙か彼方から続いてきた時間の中で、どれほど自分を汚し、どれほど自分を傷つけ、自分を落とし込めてきたか、それでも私は、本当の自分の思いに従って今あります。ここにいます。私は、それを心で実感しています。とても嬉しいです。やっと、やっと、本当の自分の思いに沿って生きていけるのです。

苦しい私を見ていくことが喜びでした。苦しい私は喜びでした。苦しい私は、温もりの中にありました。温もりの中にあつたからこそ、苦しみ続けられたんです。温もりの中にあつたからこそ、私は私を見捨てずに、今、ここにこうして存在しているんです。それが私には分かったんです。心の中で感じたんです。すごいことだと思えます。

母の思いに触れました。母の波動に触れました。遙かなる母の波動に触れた、母なる宇宙の波動に触れたこの思い、意識の世界を私は、今、しっかりと見つめています。

三三、異語とともに瞑想をする時間がとても楽しいです。

私は宇宙を呼びます。宇宙と語り合うことが喜びです。心の中に宇宙を呼ぶことが喜びです。どんな宇宙でもいいんです。私の中に、宇宙と思えば、喜びが広がっていきます。

私の中で、異語で語り合うこと、ああ、意識の世界、宇宙の中に私があることを感じます。遙か彼方に思いを向けるとき、私の中が応えます。

「嬉しい、喜びですね。アルバートと呼べるのが喜びですね。田池留吉の宇宙を呼べるのが喜びですね。お母さん、ありがとう。私達は、こうやって、お母さんに思いを向けられます。今、喜びの中で、思いを向けることができます。」

宇宙を呼んでいます。心の中に宇宙を呼んでいます。喜びの中で、宇宙を呼んでいます。宇宙が応えてくる、この時間がたまらなく嬉しいです。

異語で語り合う世界です。異語は宇宙のリズム。私はその中に、ずっと、ずっと、存在しているのです。宇宙の中に私は存在していました。

宇宙は、喜びの中でした。お母さんの温もりの中でした。お母さんの温もりの中に帰って、いけることを確認できる時間、それが、私の瞑想の時間です。だから、瞑想をする時間は嬉しい、楽しい、そして大切な時間です。

三四、今世の肉がどれだけ大切なのか、ああ、瞑想をするたびに感じます。

今世の肉は、本当に大切な肉です。二五〇年後の肉は最後の肉ですが、今世の肉があればこそ、二五〇年後の肉が生きてくるのです。

今世、肉を持ったということが、とても大切なことでした。

今世、肉を持ち、田池留吉の世界との出会いがあり、心を転回していく道筋が、とても大切なことでした。今の時間がすべてを変えていきました。

過去から未来へ、すべてを変えていった今世の時間でした。

瞑想をして、心を宇宙に向けたとき、その思いが心に響いてきます。

心にその思いが広がっていきます。だから、すべてにありがとうって言えるんです。

お母さん、私に本当に肉をくださってありがとうございます。

過去からの私がすべて、母の意識にありがとうを伝えていきます。

今世の肉が欲しかった。本当に、本当に欲しかったです。今世の肉を通し、私自身を変えていくことを心に誓ったこの心の中に、肉を持った喜びが広がっていきます。

田池留吉の肉との出会い、そして、二五〇年後のアルバートの肉との出会い、そこから意識の世界の広がりが始まりました。

次元移行をするためには、どうしても、今世の肉が必要でした。来世の肉、そして、今

世の肉、どうしても必要な肉でした。

この二つの肉により、次元移行が現実のものとなっていく、その意識の世界、その流れを心に感じ、ただただ喜びが溢れていきます。ありがとうございます。本当にありがとうございます。

宇宙へ、宇宙へ思いが向いていきます。宇宙へ心が広がっていく意識、喜びのエネルギーが宇宙に流れていきます。宇宙を思い、瞑想をすれば、この喜びのエネルギーが流れていきます。

心の中に、田池留吉の世界、アルバートの世界、その宇宙を呼ぶとき、喜びが溢れていきます。温かい、温かい温もり、喜びのエネルギーが流れていきます。本当に嬉しい。ありがとうございます。

三五、瞑想をする時間がとても大切なことを、心で感じていきましょう。

本当に大切です。

一時間瞑想が一番いいと思いますが、十分、二十分、三十分心を集中して、ただただ幸

せな時間を過ごしていきましよう。

瞑想をする時間、それがどれだけ大切な時間であるのか、瞑想ができる時間を取れるということが、どれだけ幸せなことなのか、瞑想を楽しみ、喜びが分かってくれば、そのことが心ではつきりと感じられるし、感じられれば、さらに瞑想をしたくなります。

瞑想をする時間を持ちたくなります。

お母さんを、そして田池留吉を、心から呼びたくなります。

田池留吉の世界は限りなく広いです。田池留吉の世界は、限りなく温かいです。

広い、広い中に、そして温もりの中に包まれていることを、心は知っていました。心の中に喜びが溢れてきます。温もりが溢れてきます。

思えば嬉しい。田池留吉の世界を思えば嬉しい。宇宙と思えば嬉しいです。

心の中に喜びが広がっていく時間、本当に大切にしていこうと思います。

そのようなたくさんの時間を用意していることが、ただただ嬉しいです。

心の中に思いを向ければ、喜びが伝わってきます。温もりが伝わってきます。幸せな時間をいただいています。

何も要らない。喜び、幸せを感じるには、ただ思えばよかったです。

自分を思えばいいだけです。宇宙を思い、田池留吉の世界を思い、心は遙か遙か彼方に広がっていきます。

私が私を呼んでいます。喜びへいざなっている私を感じます。

お母さんの温もりの中で、これからの時を過ごしていけることを心に感じます。お母さん、田池留吉、私はその中にあり、本当に幸せです。

三六、自分の道が見え、そして自分の行き先がはっきりとしている、こうなれば、肉のことなどもうすでに整っていることが分かります。

あれこれ思い煩わなくても、なるようになる、それが肉でした。

自分の意識の世界、つまり自分がはつきりと見えてくれば、肉はそれに従ってくるものでした。

肉しか見えなかった過去は、苦しくて暗くて辛くて悲しくて当たり前でした。その当たり前のことが分かるのに、今世は、少し時間がかかりました。それはそうですね。過去からずっとそうだったんだから、いくら意識の私が強い、強い決意をして生まれてきても、そう

簡単には自分の思う通りには遂行しませんでした。

しかし、計画は遂行すべきものでした。

今、だから、私は、言葉にはできないほどの幸せを感じています。

宇宙が計画通りに遂行していることを感じ、肉にもその満足度が届いています。

来世は、超スピードで喜びを伝達していけることを確信しています。

すべてが計画通り、喜びの宇宙へ帰る計画通りに、私の中は整っています。

三七、度重なる天変地異の中で、命を繋いできた意識達と、二五〇年後出会うさせていただきます。

田池留吉、アルバートの世界を心に持って、私は、まだ見ぬ仲間達と出会うさせていただきます。

二五〇年後、肉を持って、次元移行への喜びを、同時に、ともに、ともに味わっていく仲間達です。

彼らは、これから二五〇年の間に、この地球上で何度か肉を持ちます。天変地異の中で肉を持ちます。天変地異とともに、その肉を捨てる、そのたびに、何かを心に感じていくのです。そして、何度か転生を繰り返し、私達と二五〇年後に出会う仲間です。

二五〇年後の出会い、そして、それからの喜びへの広がりを通し、彼らは、その時に、自分達の意識の世界を目覚めさせていくでしょう。

私は、今、その仲間達に呼びかけています。まだ見ぬ仲間です。

今世は、ともに学ばなかつたでしょう。しかし、これからの二五〇年の間に、彼らは、多くのことを学んでいきます。そして、二五〇年後を迎えるのです。二五〇年後、私達と出会う意識達です。

私達は、ともに次元移行を進めていきます。ああ、私には、それが心で感じられます。

だから、私は、宇宙を呼びます。宇宙に広がる意識達に、思いを向けています。まだ見ぬ仲間達に思いを向けて、今、私は、瞑想を続けています。

心の中に、真実の世界を呼び起こしていきましょう。これからのあなた方の転生の中で、その思いをどんどん広げていきましょう。

肉を持ち天変地異に遭い、肉を捨て、そして、それを何度か繰り返して、私達と出会うのです。その時、私達の喜びの思いを、ストレートに受けていってください。私は、そのように宇宙に呼びかけています。

三八、瞑想の中で、異語とともに思いが溢れてきます。その思いが、今のこの口を通して、日本語という音で出していきます。

その内容は、私の頭では理解できないことです。時には、突拍子もないことが出てきます。とても肉はついていけないです。別についていく必要はないですが、バカな肉は、時に思うことがあります。へえー、こんなことを思っているのかと。

しかし、そんなことはお構いなく、どこ吹く風のように、私の中は、はつきりとしつかりと伝えてきます。

そして、その思いの世界は、ただただ喜びです。

特に宇宙と思えば、私の中は喜びが爆発していきます。

宇宙は待ち続けてきた、宇宙は喜び溢れる世界だ、そんなことが心に伝わり響いてくるのです。

これから二五〇年、三〇〇年、それから先に続く時間と空間、限りなく広がっていく時間と空間にある自分を思えば、ただただ嬉しい、ただただありがとうございます。今世という時間を通過したことが、私の中では、たまらなく嬉しいです。

宇宙に広がり行く喜びの世界、ともに、ともに存在していくことが、ただただ嬉しいです。

三九、私の幸せは宇宙の幸せ、宇宙の幸せは私の幸せ。

はい、私は今世ひとつの肉を持ち、このことを宇宙に知らせたかったです。ひとつの肉が欲しかった。本当にひとつの肉が欲しかった。

今世というこの時に、ひとつの肉が欲しかった。この肉を通して、真実の世界を宇宙に知らせていくこと、この喜びを今、心に感じていきます。

私の感じているこの宇宙の喜びを、心を通して、波動として、エネルギーとして流していくことを私は、心に誓いました。

私の喜びは宇宙の喜び、宇宙の喜びは私の喜び。

私達は一体となって、次元を超えていくのです。この大きな意識の流れの中にあることを感じます。

ひとつの肉が欲しかった。ひとつの肉を持って、心を田池留吉、アルバートの世界、その宇宙に心を向けること、それをひたすらやっていくために、ひとつの肉が欲しかった。

ああ今、喜びを感じています。ひとつの肉を通して、喜びを感じていく時間と空間、ただただそれが喜びです。

瞑想を続けていくと、このことが感じられます。心の中に喜びが広がっていきます。

宇宙に、喜びを伝えていける。肉を通して喜びを伝えていける。暗い、暗いエネルギーを喜びのエネルギー、明るいエネルギーに変えていける。肉を通して変えていける。そのことを私は知りました。

ああこうして、宇宙が変わっていくんだ。今世のこの時を境目にして、宇宙がどんどん変わっていくんだ。そんな大切な時間と空間でした。

ひとつの肉を持ったことが、これほど大切なことだった。本当に大切なことだった。そして、かけがえのないことだった。今、私は、実感しています。

田池留吉、アルバート、お母さん、ありがとうございます。

心を通わせていただき、ありがとうございます。

田池留吉、アルバートの宇宙、心にどんどんどんどん広げてまいります。

宇宙を喜びの宇宙へ、これから二五〇年かけて、ずっと、ずっと、この喜びを伝えていきます。

四〇、これからの二五〇年は、私にとっては、喜びの時間となりましょう。

本当に田池留吉、アルバートの世界と心をひとつにして、私は自分の中を見つめていく、その時間が二五〇年なんです。

心を田池留吉に向ける、アルバートに向ける、宇宙を呼ぶ、その中で私は、今喜びを感じています。

そして、その喜びの思いを、この地球という星に向けています。

この星は、最後の役割を果たしてくれそうです。私達の計画通りに、地球という星は私達を受け入れてくれました。苦しい、苦しい狂ったエネルギーを、ずっと、ずっと受け続けてくれた地球に、私達は、今、思いを向けています。宇宙から思いを向けています。地球に私達の思いを届けます。

はい、地球の思いが伝わってきます。地球という星が、私達に伝えてくれます。

「そうです。これからの二五〇年も、ともに、ともに喜びを伝えていきます。狂った意識を受け続けてきました。しかし、私は喜びです。喜びで、これからの時間も通過していきます

す。ともに、ともに、次元を超えていく喜びを伝えさせていただきます。

どうぞ、思いを向けていってください。私はすべてを受け入れています」、地球の意識が語ってきます。

「私、地球の意識も、ともに母なる宇宙へ思いを向けています。

これからの時間を経て、母なる宇宙へ思いを向けていくのです。

地球という星、すべてが喜びです。喜び、喜びでエネルギーを受けています。そのエネルギーは、喜びへ帰ることができるエネルギー、私地球の意識は、それを知っています、信じています。」

四一、はい、お母さんを思えば、ごめんなさいという思いよりも、嬉しい、お母さん、ありがとう、ありがとう、ありがとう、その思いしか出てきません。ごめんなさい、お母さん、ごめんなさい、その思いよりも、お母さん、私は嬉しい、ありがとう、幸せです、そんな思いで、お母さんをおもうと嬉しい、ただありがとう、本当にありがとうございます、その思いが広がっていきます。心の中にアルバートが広がっていきます。

アルバート、アルバート、その目の中に、私は自分の喜びを重ねています。次元移行の
思いを重ねています。

私は田池留吉を思うとき、アルバートの目を見ます。はい、私達は、次元移行を目指し
て一直線に突き進んでいるエネルギーを感じます。

心に、嬉しい、嬉しい、ありがとう、喜び、喜び、その思いだけが
湧き上がってきます。

はい、田池留吉、アルバート、その目の中に次元移行の思いを広げています。嬉しい、喜
びが広がっていきます。ただただ喜びが広がっていきます。異語とともに喜びが広がってい
きます。

異語は喜びのエネルギー、喜びのパワーです。異語で語るとき、喜びが爆発していきます。
異語を語る私は喜び。喜びのエネルギーを爆発させていきます。その喜びのエネルギー
が宇宙に流れていくのです。そう、喜びとともに次元移行をしていく私の意識の世界を感じ
ます。次元移行をしていく今、今を感じます。

四二、間違はなく宇宙的規模の天変地異が起こってきます。

宇宙的規模の天変地異は、意識の流れの中の必然的な出来事です。

私は、そのことを心に感じます。間違はなく起こってくる出来事により、次元移行が現実のものとなってきます。

意識の流れの中にある私達です。ともに、ともに次元を超えていこうと呼びかけてくる宇宙からのメッセージ、私は、肉を離れた後も、このメッセージをお伝えします。

宇宙からのエネルギーは、この地球に天変地異を起こしてまいります。

目覚めを起こすために、二五〇年の間に何度も繰り返しされる天変地異の嵐です。そうやって、二五〇年後の舞台を整えていくのです。

人類の目覚めのために、宇宙からのメッセージが、天変地異のメッセージが届けられます。

地球は、もうすでにその準備を整えています。地球の意識は、喜びでその天変地異の思いを受けてくれました。

地球の内外から噴き出すエネルギー、そのエネルギーによって、目覚めてくる人類の意識です。

その意識達、二五〇年後出会う仲間達の思いを、私は、今感じています。

だから、二五〇年後がとても楽しみです。呼びかけに応じ、すばやく反応をしてくる意識達は、二五〇年の間に色々な出来事に遭遇していきます。

意識の目覚めを促していく出来事、それが天変地異です。

肉を持たずに、私は、このメッセージを送り続けます。宇宙からのメッセージとして、エネルギーを送り続けます。喜びで、喜びとともに次元を超えていこうとする宇宙の仲間達にメッセージを送り続けます。その仲間達が、二五〇年後、地球のあちらこちらから、私達にアクセスしてくるのです。

二五〇年の間に、宇宙からのメッセージを受けて、そして、最終時期に私達と出会う手はずになっています。意識は素早く反応します。呼びかけに素早く反応してくれます。出会いが楽しみです。

四三、再び、父に思いを向けます。父の意識に思いを向けてみます。優しい思いを向けてみます。お母さんにいただいた心、ともにあることを伝えます。私はあなた、あなたは私。そのように私は、あなたに伝えます。

暗黒の世界を広げてきたのは同じです。ともに、心を見つめてまいりましょう。

はい、はい、はい、思いを語ることを喜びとしていきます。語れることが喜びです。はい、少し語れることが喜びでした。私の中に喜びの思い、温もりの思いを感じます。たくさんのエネルギーの中にほんの少しだけ、その喜びのエネルギー、温もりのエネルギーを感じます。母の思いが少し伝わってきました。心の中に、暗い、暗い、心の中に、優しい思いを感じるとき、私が私を語れます。私の中が少し緩み、私が私を語れる、その喜びを私は、今感じています。

苦しい中を生き続けてきた心です。はい、私は、母に思いを向けなさい、そのように伝えていただきました。

母に思いを向けるとき、心の中に、この思いが出てきます。

母の思いに背いてきた心、その思いの中に沈んできた心、母に思いを向けることなく今まで過ごしてきた心、その思いがとても苦しく、私の中に沈んだ状態になっていました。

心を温かいほうに向けると、どんどん私を語りたいという思いを、今感じます。お母さんと呼んでみたくになります。お母さんと呼んでみたい。そう呼んでみたい。素直に呼んでい

けなかった私の中に、素直に呼んでみたいと、この心が少しだけ広がってきました。

私の中に、喜び、素直な思いがありました。お母さんと素直に呼べる私がありました。苦しい、苦しい中に生き続けてきた私でした。母の温もりなど知らなかったです。

心の中に闇をたくさん抱えたまま生きてきました。閉ざした中に、ずっとずっと閉ざした中に、重苦しい中に生き続けてきた心に、優しい思いが届いています。しっかりと、しっかりとその思いを受けていきたいと思えます。

心を語らせてください。これから心も心を語らせてください。

呼んでください。思いを向けてください。私はそのように伝えていきます。

はい、優しい思いで抱きしめたいです。心の中に苦しい思いが感じられます。苦しい思いを抱きしめて、抱き止めて、そして語らせてあげることが喜びだと私は感じました。心をひとつにして、心を語りなさいと、そうやって思いを向けること、それが愛でした。心を語りなさい、そのように言っただけが愛でした。優しい思い、母の思いを向けること、その思いを向けることが愛でした。母の思いを向けることが愛でした。心の中に安らぎを感じてくれている喜びが、今、私に伝わってきます。

何もなくても、この安らぎと喜びと温もりがあれば、息がつけるんだなあと思います。語れることが喜びなんです。

少し小さな穴を開けて、そして、そこから温かい優しい思いを感じていけることが喜びなんです。その小さな、小さな穴を開けてあげられること、そのことが喜びのエネルギー、仕事をするのでした。心を向けたとき、そのように感じます。

小さな、小さな穴でいいんです。そうやって、私は苦しい思いに、小さな、小さな穴を開けてあげられる今があります。喜びの思いを感じてくれていることを、実感しています。

私は幸せです。大きな、大きな闇を抱えてきました。私自身も大きな闇を抱えてきました。しかし、私は私の中を見つめてきました。心の中に本当の安らぎと柔らかな、柔らかな波動を持った私自身を感じてきました。その私自身を、少し、もう少し心に広げ、そしてふっと思えば、こうやって通じていくんですね。まだまだ何も知らないのと同じ意識に向けて、私は、このように伝えることができ喜びです。

その喜びは、大きな喜びとなって帰っていくでしょう。私は、それを信じています。このことを、私は、やり続けます。

自分の心を感じた安らぎ、柔らかな波動の世界を、ふっと心に向けて、暗黒の世

界に伝えることができます。

宇宙に伝え続けます。これが私の喜びでございました。父の意識を通して、私は学ばせていただいています。これからも、そうして心に向けることを学んでまいります。

四四、私達は、限りなくひとつに近づいていきます。真実に近づいていくために、これからの時を経ていきます。心を、ともに、ともに見つめてまいります。ともに、ともに歩いていける喜びを感じています。

田池留吉、アルバートの世界、心をひとつにして、その世界へ、その世界の奥へ、奥へ進んでいくことを喜びとしています。

心の中には喜びしかありません。たくさんエネルギーを使ってきました。

そのエネルギーは、すべて喜びへ帰るエネルギーでした。

私達は、喜びのエネルギーを追い求めてきました。

喜びのエネルギーを追い求め、私達は、この地球上で三億六千年という時間を経てきました。それ以前も含め、私達の喜びの思いを、もう少し、もう少し、しっかりと心の中に広

げていくことを、あなたに伝えます。

私達の喜びはあなたの喜びです。田池留吉の世界を感じるあなたの中で、喜びが爆発していきます。田池留吉の世界を心で伝えることが喜びだと、あなたに伝えました。

心の中に田池留吉の世界を広げていけること喜びです。

喜びしかありません。これからも喜びを伝えてまいります。

私達の思い、その思いをストレートに受けていってください。

四五、 田池留吉です。心をアルバートに向けてみなさい。

はい、田池留吉。心の中にアルバートを呼んでみます。

心の中に呼んでいくとき、私の心は広がっていきます。どんどん広がっていきます。田池留吉の宇宙、アルバートの宇宙、私はその中にあることを感じます。私は、待ち望んできました。アルバートとの出会いを待ち望んできた意識です。心の中に宇宙を呼んでいくことを待ち望んできた意識です。はつきりと感じられます。私は、この宇宙がとても好きでした。

宇宙を呼ぶ私は喜びです。はい、私の中に宇宙が広がっていきます。

宇宙に思いを向けることは喜びです。ありがとうございます。田池留吉の宇宙、アルバートの宇宙、心の中に広げていけること喜びです。

宇宙は、はい、ずっと、ずっと待っていてくれました。宇宙へ帰れる喜びを、私は、今感じています。宇宙とともに、喜びのもとへ帰れる、母なる宇宙へ帰れることを、私は、今世、自分の心で知りました。

だから、私は、嬉しい、嬉しい今世の時間を過ごしています。

私の来世は、もちろん喜びです。宇宙を呼ぶ私の来世の喜びが、伝わってきます。心の中に伝わってくるアルバートとともに、宇宙を呼んでいく私の来世。はい、二五〇年後の来世の喜び、はい、遥かなる宇宙へ帰ってまいりましょう、ともに、ともに帰ってまいりましょう、そんないざないを伝えてくれます。その喜び、喜びの渦の中に、私達は帰っているのです。私達の喜び、宇宙の喜びを、今心に感じています。

四六、田池留吉にしっかりと心の針を合わせています。私の中に喜びが、温もりが広がって

きます。

私は、今、色々なことを試しています。

全く学びを知らなくて肉を捨てていった意識にも思いを向けています。

もちろん、今世の私に繋がりのある意識です。

ふつと思うと、全く固まった状態の中に、苦しい、苦しい中にあることを感じながら、私は、私の思いを伝えました。

自分の心で感じてきた世界、温もりと優しさの世界で自分をしっかりと包みながら、あなたの苦しさを解き放していこう、自由にしていこうと、思いを伝えました。

語りなさいと伝えました。私は、どんな思いも、私に伝えてくださいと語りかけました。

恐怖はありません。心を田池留吉にしっかりと合わせ、私は、私を見つめながら、私の中に優しい母の温もりを感じながら、その思いで自分を包みながら、私は私の心で感じた思いを伝えていきます。

私は、それが自分の中で喜びとなっていくます。

苦しさも語れないほど、苦しく凝り固まった状態の意識に向けて、私は、自分の心で感じた世界を向けていく、その喜びを感じています。

少しでも、固まった状態が解きほぐされ、自分を語ることができるようならば、どれだけその意識達が、楽になつていくか、私の心の中で実感しています。

自分の本当の姿を知らない意識が肉を離せば、苦しみの奥底に真逆さまに落ちていくだけです。そして、もう全く身動きひとつできない固まった状態になつてしまいます。

自分でそこから抜け出すことなど不可能です。心で母を呼ぶことなど不可能です。だから、心を感じた世界、その世界が、本当に自分の中で広がつていつているならば、その思いを、それぞれに縁のある意識に、心を向ける、これが本当の優しさではないでしょうか。

もちろん、自己供養が前提です。自分の中に優しさと温もりを感じ、その思いで自分を包んでいく作業を重ねていけない限り、それはできません。まず、自分の供養です。自分の中に真実を伝えることができ、その自分を心に広げることができたならば、その思いを、それぞれの縁のあつた意識に向ける、そういうことをやってみるべきではないでしょうか。

それが本当の優しさであり、宇宙を思うことは、そういうことだと思えます。

宇宙を思っていけば、何も知らなくさ迷い続けている意識達と出会います。その意識達にどれだけ伝えていくことができるか、その喜びを実感していくことができるか、それが大きな意味での供養、ともに歩いていこうとする本当の優しさ、本当の温もりだと私は思いま

す。

四七、宇宙に喜びの思いを広げていくこと、とても大切なことです。喜びのエネルギーです。宇宙を変えていく喜びのエネルギーです。凄まじい宇宙を作ってきた心の中が、喜びに帰っていくんです。それが私のこれからの時間です。

宇宙を思うとき、喜びが溢れ出てきます。たくさん宇宙を作ってきました。凄まじいエネルギーを作ってきました。宇宙の中に凄まじいエネルギーを作り続けてきた私の過去です。その過去を思い、私は、今、宇宙を思い、瞑想を続けています。

宇宙に喜びのエネルギーを放出していけるのです。喜びのエネルギーがすべてを変えていきます。田池留吉の宇宙を思えることが喜びです。田池留吉のメッセージ、私の中に届きます。

田池留吉に心に向けることをやり続けていく、そのために私は生まれてきました。肉を持ってきました。田池留吉の肉を通し、私の肉を通し、この喜びのエネルギーを伝え続けていくこと、それが私のこれからの喜びとなっていくでしょう。二五〇年に繋がる道は喜びの

道です。喜びのエネルギーを伝え続けていきます。はい、私は、喜びのエネルギーを伝え続けていきます。

宇宙を変えていくこと、それは本当に大切なんです。二五〇年の間に、宇宙は、この地球に喜びのエネルギーを伝え続けます。

地球は変わっていきます。三億六千年、私達の思いを受け続けてきてくれた地球とともに、喜びのエネルギーを伝えていきます。次元移行には、欠かすことができないことです。地球という星は、その役目を果たしてくれます。これからの二五〇年、本当に、大切な、大切な時間です。心の中にそれを感じます。宇宙を呼ぶとき、そのことを感じます。天変地異の喜びを感じます。宇宙から喜びを感じます。天変地異は私達を喜びにいざなってくれるんです。それは、この地球の意識とともに、進んでいく喜びの時間です。

はい、それを私は伝えたかったです。宇宙を思う喜びを伝えたかったです。田池留吉の世界を感じていくとき、宇宙を感じます。宇宙の喜びを感じます。宇宙を、どんどん広げていくように、田池留吉の世界からメッセージがきます。はい、私は、それを忠実にこれからやり続けていきます。このエネルギー、宇宙に届けるエネルギー、宇宙から届くエネルギー、ともに、ともに、この地球をひとつの舞台として、これからともに、ともに現象化してまい

ります。

四八、 田池留吉、 私には母にいただいた心があります。母からいただいた心があります。本当の自分があります。本当の自分の思いを心に感じます。

お母さんに愛されてきた私があります。この心とともに、これからずっと存在していることが、本当に嬉しいです。

私が私に思いを向ければ、私が応えます。幸せです。ありがとう。優しい心を持っていました。本当の私が私をいざなってくれています。

宇宙に帰る道筋を、ずっといざなってくれていました。お母さん、私は、田池留吉、アルバートの意識の中で、その世界の中で心を広げています。

本当の私とともにある私を感じています。ああ、お母さん、嬉しいです。心の中に思いが広がっていきます。あなたの思いが広がっていきます。

私の帰るところ、私達が目指すところ、今、私の中にはつきりとその道筋を立て、今、ともに歩いています。

私の中の宇宙とともに歩いていく道筋を感じています。

私は、本当に幸せでした。初めから幸せでした。

お母さんに、この思いをいただいていたいました。ありがとうございます。

私は私を思い、私の帰る宇宙を思い、瞑想を続けていきます。

アルバートに帰る道、母なる宇宙を指して、私は本当に幸せです。

来世が語ってきます。

私達は、喜びを感じています。喜びの中にいます。田池留吉、アルバート、私達の宇宙は喜びです。私は、来世の意識を今、語らせていただいています。

心の中に、宇宙を広げていく来世の私達です。私達は宇宙を呼びます。宇宙に思いを向け、喜びを共有できる幸せを感じています。

宇宙が応えてきます。ともに、ともに歩いていこう、そうやって宇宙が呼びかけてくる来世、私達は今、その思いを感じ合っています。

地球から、この思いで飛び立ちます。遙かなる意識の世界へ、宇宙へ思いを向けていきます。二五〇年後の私達、ともに、ともに、今喜びを感じています。

四九、私の世界は、異語とともに広がっていきます。田池留吉、アルバートを思うとき、異語が自然と出てきます。宇宙を思っているんですね。私の中は、喜び溢れています。宇宙を思うとき喜びです。異語を語っているとき喜びです。心の中に宇宙を呼んでいくとき、私の中は広がっていくのが分かります。宇宙は私が目指した大きな世界でした。明るい、明るい世界でした。すべてを受け入れてくれる宇宙、その宇宙の中に、今あることを感じます。これからの時間をこうやって過ごしていけるんですね。心を田池留吉、アルバート、その意識、その宇宙に向けるとき、私はそう思います。

はい、異語が飛び出て、私の中を語りなさいと伝えてくれます。

異語を語るとき喜びなんです。宇宙を感じることは喜びです。瞑想をすることは喜びです。瞑想をして、田池留吉の宇宙に合わせる、その喜びを感じています。心の中には、穏やかな広がり、温もりと安らぎの世界が広がっていくのが分かります。

宇宙が私を呼んでいます。宇宙が私を呼んでいる。宇宙に思いを向けるとき、母なる宇宙が、はい、広がっています。

ああ、私の目指す母なる宇宙、その姿を、私の中に、今、大きく、大きく感じています。母なる宇宙へ思いを向けていくときは、とても嬉しいです。嬉しいです。母なる宇宙、私達の帰る場所。あの温かい温もりの世界、母なる宇宙を思う瞑想を続けていくことが喜びです。

アルバート、アルバート、アルバート。心の中にアルバートを呼ぶ私があります。母なる宇宙、アルバートへ帰る道、私は、今、その道をひたすら歩いています。

五〇、お母さん、宇宙を思えば思うほど嬉しいです。私は、この宇宙の中に生き続けています。お母さん、今肉を持って、私は私の世界を語ることができます。お母さん、あなたに私の心へ向けることができました。お母さんに思いを向けることができました。肉を持って初めて、あなたの思いを感じることができました。そんな今の時間です。

たくさんの宇宙が応えてきます。たくさんの宇宙が私の中に応えてきます。喜びの思いを伝えてきます。宇宙に思いを向けていってくださることを喜んでいきます。宇宙との語らいを、今やり続けています。心の中にどんどん宇宙が広がっていきます。宇宙を感じる喜びが心に

広がっていきます。

田池留吉の意識の世界と出会わせていただいたこと、ありがとうございます。田池留吉の肉を通し、アルバートの世界を感じさせていただきました。その宇宙、その意識の世界を感じさせていただきました。これからの時間の流れを感じさせていただきました。肉を持ちながら感じる世界、今、私は、本当に瞑想の中で、喜びを広げています。

私の今の肉には、宗教的なこと、精神世界のこと、ほとんど知識も何も持ち合わせていません。過去を紐解けば、もちろん私は、たくさんの神々を求めてきたし、パワーも求めてきたに違いありません。しかし、今世の肉には、頭の中には、何の知識もないんです。なまじつか知識があるということは、真実の世界を心で知っていくことに大きな障壁になつていくかもしれません。私は、今世、何もそういう世界のことについて、学んでこなかったからよかったと思っています。

真実を求めるこの心、その意識の世界がこの肉を持ってきたのです。必ず自分の中に真実を伝えていこうとするその思いだけでよかったです。その心でした。私の心は叫んでいました。今、私は、瞑想をする中でしみじみそう感じていきます。

温もりを捨ててきた心に温もりを蘇らせていこう。母なる宇宙をこの心の中に思い出していこう。その思いがとても、とても強かった。これが私の今のすべてでした。

五一、私は、宇宙と交信するために、肉を持つてきました。どうしても肉が必要でした。はい、瞑想をするとそのように伝わってきます。

私には、肉が必要でした。どうしても肉を必要としました。ただその肉を使って宇宙と交信をしていく、そのために、どうしても肉が必要でした。

はい、肉の人生はそうでした、宇宙を知っていくためにありました。

ようやく、今世、そのことを自分に伝えることができました。初めて、肉の人生の本当の喜びと幸せを今世、味わっています。今世の肉を通して、宇宙へ思いを向けることができました。

だから、肉の時間はそんなにもう必要ありません。二五〇年の間に、あとひとつの肉だけで充分でした。二五〇年後の肉をもって、私達は次元を超えていく計画を立てました。その確かなる道筋が心に感じられます。

はい、今世、肉をなぜ持つてくるのかと自分に何度も問いかけてきました。そのたびに、なぜというよりも、今世は何としても、肉が必要だったと返ってきました。そして、今はつきりと感じています。宇宙を感じるためでした。

私の思いとしては、肉は標準的な肉でよかったということです。標準的な能力が備わっていれば、それでよかったです。思い通りの肉を持ってきました。あとは、その肉を通して、どのように宇宙という意識の世界を感じていくか、知っていくか、そして、その世界を確信していくかでした。

それもほぼ、自分の思うとおりに進んでいます。だから、肉の時間の喜びと幸せを、私は充分に感じています。

意識の世界はもちろんのこと、私は、肉でも幸せです。

五二、瞑想より、心に伝わってくるメッセージは、何度も母の意識が私に教えてくれたこと、私に伝えてくれたことでした。

「アルバートの思いに戻りなさい。アルバートの心に戻りなさい。あなたは喜びですよ。

あなたは温もりですよ。あなたの喜びは私の中にあります。アルバートの中にあるあなたを思い出していきなさい。」

母の意識が私に伝えてくれたこと、三億六千年の時を経て、私に伝え続けてくれたこと、その思い、その意識を、今、しっかりと心に感じていきます。母の意識に帰ること、母なる宇宙へ帰ること、その思いを心に伝えていただきました。今世の私は、その思いをこの肉を通して感じてきました。

「母の思いに帰りなさい。温もりに帰ってくるんですよ。必ず帰ってきなさい。あなたは、そのために今存在しています。肉をあなたに授けました」、そうやって、幾度も、幾度も私は肉という形をいただきました。母の意識からいただきました。

本当の私の思いに従って、私は、私を生かしていくこと、それが私の幸せ、喜びでした。母は伝えてくれていました。たくさんの意識達が伝えてくれていました。

「間違ってきた道を歩いてきた自分を振り返り、その自分に優しい思いを届けなさい。ともに、ともに歩いていきましよう」、そうやって、アルバートが私に伝えてくれたことと、全く同じでした。

アルバートの思いは母の思いです。アルバートの思いは、田池留吉の思いです。そして、

田池留吉、アルバートの世界を心に広げていけることを喜びとしていきなさい、真つ直ぐにそう伝えてくれた母なる宇宙の思いです。その思いを、今、しっかりと心に感じています。

五三、なぜ今肉を必要とするのか、そのところにポイントを置いて思いを向けていけば、今と
いう時に絶対に肉が必要だったことと、だからこそ、その肉を最大限に的確に有効に使って
いく必然性を、ただ感じるばかりです。

真実を知り、感じ、そして真実の世界を確実なものとしていくために、肉というものを
最大限に的確に有効に使っていく、この思いこそが、私の今世に賭けてきた大きな、そして
強い決意の表れです。

この決意があったからこそ、今の私が存在しています。

そしてその思いが、現象化してきましたし、これからも現象化していきます。

私の中心棒は揺らぐことなく、これからもずっと真実の方向を指して進んでいくのみです。
すべてがその一点に集中していくこれからです。

私の思いは、宇宙に天変地異を起こしていきます。宇宙へ思いを向ければ向けるほど、宇

宙に天変地異を起こしていく、その流れの中にある自分自身だと私自身の意識の世界が伝えられます。

五四、私の基本は、本当の私に誠実にということです。本当の私が望んできた思いに誠実に従っていく、それが私の基本です。あとは、生活の中で適当にしています。適当にしても、私は、肉も幸せです。

肉の時間には限りがあります。ゆったりと心を広げて瞑想をする時間には限りがありません。年齢的なこと、体力的なこと、色々な条件の中で、自分の心をゆったりとしつかりと真実の方向に向けていくこと、限られた時間の中で、それをするために肉があります。はつきりとした目的意識の中で、私は、今、学びをさせていただいています。今世の私は幸せです。本当に幸せです。

異語が私に伝えてくれます。異語を語りながら、私は自分の中を確認しています。異語を語る私、この私の思いに従っていけばいいんだ、間違いないと異語を語りながら、私は、自分を確認しています。

私が求めてきたアルバートの世界、この世界は私が探し、探し求めてきた世界、そんな思いを異語を語りながら確認できます。

はい、お母さん、私は、アルバートを求めて、求めてきました。

心の中に、今その思いを確認できます。アルバートの思いをしつかりと心に感じながら、私は、アルバートと呼べる今があることがとても嬉しいです。私が生きている世界はアルバートの世界。

母なる宇宙へ心に向けて自分を進めていくこの道。本当にありがとうございます。

宇宙とともに歩いていく道、アルバートへの道。本当にありがとうございます。

五五、アルバートに向けて思いを語ります。

アルバートの世界、心の中にアルバートの世界、その宇宙を呼んでいくとき、とても大きな喜びを感じます。

アルバートの思いを感じます。心の中の喜びを語ります。限りなく広がっていく喜びの世界、温もりの中にある私を感じます。私達の中は喜びです。

今、宇宙を呼んでいます。アルバートに思いを向けると宇宙、そして、田池留吉の意識の世界が心に広がっていきます。

私の中はとても広いです。心の中を田池留吉の宇宙が呼んでいます。

田池留吉の宇宙です。心の中をどんどん広げていくことが喜びです。

田池留吉の宇宙に心を向けること、それは喜びを心に広げていくことです。母にいただいた心の世界です。母の思いを繋いで、繋いできました。

三億六千年の長き時間の中で、この喜びを心に広げるために、今肉を持っています。ありがとうございます。

アルバート、田池留吉、その世界に心を向けること喜びです。ありがとうございます。すべては喜びに繋がっていきます。宇宙が広がっていきます。宇宙を思うとき喜びです。

私は、この波動の中に生きています。私のすべてがこの中にあります。

五六、私は、田池留吉の意識です。真実を伝えにきた意識です。その意識が、ひとつの肉を持つてきました。あなたが感じている通り、私は真実を伝えにやってきた意識です。その意識が

この地球上で真実を伝えるためには、三次元で真実を伝えるためには、私も肉というものが必要でした。

ひとつの肉を私はいただきました。自分で用意しました。その通りです。

私は、アマテラスの国、日本に肉を持ちました。アマテラスの意識を目覚めさせるためです。アマテラスの意識、この宇宙を制覇してきたアマテラスの意識を目覚めさせるために、私は、アマテラスの意識が具現したこの日本の国に肉を用意してきました。ひとつの肉を用意し、環境を設定してきました。心を見る環境です。

肉を持つということは大変なことです。肉を持って、私は、この三次元の地獄の中に降りてきました。私自身肉を持ち、これまでに、地獄の様相を心で感じてきました。それは、私の意識の世界を変えろという意味ではありません。あなたもご承知のとおり、私には転生がありませんから、私の意識の世界を根本的に変えていくことは必要ありません。ただ肉を持った以上、私もその地獄の様相を自分の中で知っていったに過ぎませんでした。言え、あなた方と同レベルまで私の意識は降りていかなければなりませんでした。

そんな状況の中で、私は、今世、ひとつの肉を持ち、ずっと肉の人生を歩いてきました。自分の職業を通し地獄の様相を感じてきました。自分の家庭からも、私は人間の愚かさを感じてきました。

私の妻、子供、すべては愚かな生き物です。愚かな転生を繰り返してきた真つ黒な暗黒の世界を心を持っている意識達、その意識達とともに、私は、今日まで時間と空間をとともにしてきました。

もちろん、それによつて、私の根本的な思いが揺らぐことはありません。なぜならば、私は、真実を伝えにきた意識だからです。

ただ目の前を通り過ぎていくものを、私は、そう、映像として見てきました。

もつとも肉を持っていますから、肉の部分に近い思いは、その映像によつて心が揺らぐことはあります。しかし、私は、そんな時も、ふつと自分を思い、ふつと心を向ければ、そういうものは、私にとつては、また映像にしか過ぎないとなってくるのです。

それらが、私の中から波風を立てるものではない、そのようにして私は、日々を過ごしています。

田池留吉、私は塩川香世です。あなたとともに真実の道を学んできました。あなたが指示した真実の道を、私は、しっかりと見つめ、今日まで学んできました。

私の中には、数え切れない転生の歴史があります。あなたとは違います。私は、暗黒の

宇宙を心に持ったそんなたくさんさんの苦しみ喘いでいる意識とともに心に携えて、このひとつの肉をもらって来た今世です。そんな私が、あなたの指し示す方向を向くまでは、本当に大変でした。

しかし、私は今世に賭けて来たのです。今世、あなたがこの日本の国に肉を持つ、真実の意識が肉を持つということを知っていたから、私も、同時期に日本の国に肉を持ちたかったのです。

私は、宇宙をあまねく支配してきたアマテラスの意識、そしてもつと、もつと大きなエネルギーで宇宙を支配してきました。だからこそ、私は自分の意識の世界の変革を今世に賭けてきたのです。

田池留吉という意識、真実を伝えにきた意識とともに、そこで自分を見つめていく、自分を変えていく、そのために、私も肉を持つてきました。

私は、それをしっかりと自分の中で確認しています。

だからこそ、田池留吉、アルバートと思えば、私の中には、無限に広がっていく喜びの世界があります。温もりを感じます。それは、ただただ温もり、ただただ優しい、ただただ広がり、そんなものではありません。

私が私のすべてを賭けてきた今があるのです。田池留吉、あなたが真実を伝えにやってきたこの今という時に、私も自分のすべてを賭けてきたのです。そのことを私は、心で感じています。それが私の目覚めです。意識の目覚めです。私は、自分の意識に目覚めました。宇宙を支配してきた暗黒の意識が、自分の光を信じて、本来の自分の姿を信じて、こうして、今存在しています。目覚めです。私の目覚めは確かなるものです。

計画通りでした。宇宙を変えていこうとする私の思いは、私を目覚めさせました。田池留吉という意識が、この日本の国に肉を持ってきた時期に合わせて、私も、また肉を持ち、その目覚めを促しました。

これから二五〇年続いていく時間の中で、私は、あなたとともに宇宙を変えていきます。宇宙にいつも、いつもメッセージを送り続けます。そして、二五〇年後、私達はまた、同時にほぼ同じ場所で肉を持つのです。私達の出会いから二五〇年後が始まる、それは、もうすでに、私の中では、はつきりとした現実です。

五七、田池留吉、私は塩川香世の意識です。私は、真実を探し続けてきました。真実とは何か、

自分の心の中に探し続けてきました。それゆえに、他力のエネルギーを心に蓄えてきました。他力を求めてきた過去があります。他力のエネルギーの中に埋もれてきた私がありました。そんな私が、今世、肉を持ち、あなたとの出会いを果たしました。私は、何を置いても田池留吉との出会いを果たしたかった。田池留吉という意識の世界と出会いたかった。この思いに全く間違いはありません。

私の中に、田池留吉、アルバートを思う思いがしっかりとあります。

私は、あなたとともに歩いていく意識です。たぶん、今世のあなたとの出会いがなければ、私は、地獄の奥底に沈んだままだったでしょう。

その思いをしっかりと今、心に感じています。だからこそ、私は、田池留吉、アルバートを呼ぶとき、心にとても大きな喜びを感じます。

私は宇宙の変革を目指して、これから、ますます心を宇宙に向けてまいります。天変地異を起こしていくと、私は、伝えました。田池留吉の意識、アルバートの意識、その宇宙を心に感じている私には、もう何も思うことはありません。ひたすら、ただただ思いを向けていくだけです。

次元移行というのも現実です。私の中では現実です。いかにその次元移行を効率よく果

たしていくことができるか、それがこれからの二五〇年の間にかかっていると伝えていますが。私は、これから二五〇年に至る時間、宇宙へ思いを向けていきます。宇宙が私達を変えていくことを、私は、伝えていくんです。

私は、今肉を持っています。しかし、私は、肉を持たずとも、宇宙へ思いを向けていくこれからの二五〇年という時間です。そして、この思いを二五〇年後に引き継ぎ、ずっとずっとあなたと歩いていきます。

二五〇年後に肉を持ち、私は、ますますこの思いを強めていきます。二五〇年後の転生を待っています。田池留吉、アルバートとともに転生をしていくアメリカの地で、私は、すでに待っています。心の中に、田池留吉、アルバート、その宇宙、母なる宇宙を呼ぶ私の意識の世界は、もうすでにアメリカの地で待っています。アルバート、あなたとの出会いを待っています。そこでは、多くの人達に私達は真実を伝えていきます。

二五〇年後の肉は、とても厳しい環境の中にありますが、その中から、私は、本当に目覚しく蘇っていくんです。

心の中にアルバート、その意識が私を呼び起こしていきます。田池留吉、アルバート、私はあなたとひとつ。ひとつ、ひとつ、ひとつなんです。

五八、今、田池留吉のもとにひとつにまとまっている学びの形も、時間の経過とともに、分散、分裂していきます。

その流れは、プラスに流れていく流れもあれば、もちろんマイナスを帯びていく流れにもなり得ます。

それは、今、ひとつにまとまっているかのように見えていだけで、実はそうではないということなのかもしれません。

それぞれ、どのような軌跡を歩んでいくかは、それぞれの選択です。

そして、その結果も自分のもの、本当に公平で公正な世界です。

私は、前々から伝えてきました。それぞれの学びは、田池留吉の肉がこの世から消えたあと、本格的に始動するのです。それぞれが田池留吉のメッセージを受けて、そのメッセージのもとに学びをしていけばいいのです。そして、その結果は、みんな自分のものです。どんな結果になっても、自分のものです。また、自分には絶対に嘘はつけません。

田池留吉のメッセージを受ける作業など造作もないことです。ただし、それが真実、田池留吉のメッセージであるかどうかは知りません。

意識を受けているか否かが問題ではなくて、いかに、自分の意識の世界を修正できているかが問題なのです。肉基盤のままであるかどうかという識別もできないままでは、とても、とてもということだと思えます。

こう言ってみても、実際に田池留吉の肉が消えて、そして、時間が経過していかなければ、現実的には感じられないかもしれませんが、私は、おそらく、そうなっていくと思いません。それほど、他力のエネルギーのすごさ、恐ろしさは根深いものだということでしょう。

五九、 いずれ、学びは分散、分裂していく、肉という壁を払拭できない意識は、知らずのうち、違う流れに乗っていくでしょう。離散と言ってもいいでしょう。しかし、それもまたよしなのです。それらは、いつかはどこかで修正されていくかもしれないし、されないかもしれない、それでもそれもよしです。

なぜならば、意識の流れは、もうすでに厳然としてあるからです。これからの時間の中で、似て非なる流れは、自然に淘汰されていきます。これから二五〇年の時間を経て、さらに意識の流れはその姿をはっきりと見せていきます。暗黒に苦しむ意識は、自らその道を選んで

いった結果です。

自らの過ちに気付いていくのは自らでしかない、そのことを、今世、田池留吉の学びに集ってきた人達は学びました。私達は、何も特別なことを学んでいるわけではありません。そのチャンスを自分に与えたまでのことでした。自分の過ちにいつ、どこで気付き、それをどのように修正していくのかということでした。

ただ、そのチャンスはそう何度も巡ってくることはないのです。もうそうそうに時間は残されていないことを、真実の世界から伝えにきてくれたのです。

もちろん、私は、自分の予定した学びのコースを歩んできたから、このことが心に伝わってくるのです。どんなに学びの形式が変わっても、私自身何も影響を受けることはありません。それは、私に限らず中心棒がしっかりと確立していればそうでしょう。

私は、だから楽しいです。自分の未来が見えて、道筋が見えて、宇宙が呼んでいる、そんな中にある私を感じているのだから、これからの二五〇年、三〇〇年は、ただただ楽しい、そして嬉しい、本当に嬉しいです。

六〇、田池留吉、アルバートに心を向けて自分を語るとき、心が嬉しくて、嬉しくて仕方がありません。

自分というもの、この心の世界、意識の世界に存在する私を、私は今語っています。田池留吉、アルバートという真実の世界に出会った私の喜びを語っています。それが私だということ、心が伝えてくれました。その私の思いを今感じています。心が嬉しくて、嬉しくて仕方がないです。

出てくる思いは、本当にありがとうございます、私は幸せです、自分を知ったから幸せです、本当の自分を知ったから幸せです、私は宇宙とともにありました、宇宙は私だった、そんな思いです。

意識の世界にある私です。ともに歩いていく意識の中に、私は、今ここにこうしています。田池留吉、アルバート、思いを向ければ応えてくれると、ともにいることを感じられると、私が私に伝えてくれます。

嬉しい、ありがとう。本当にありがとうございます。私は、この私の思いを知りました。だからとても幸せです。

私は、いつでも、田池留吉、アルバートと語っています。田池留吉、アルバートは私に応

えてくれます。喜びを伝えてくれます。ありがとう、嬉しい、ありがとう、ありがとう、その思いが伝わってきます。

そして、一番大切に一番嬉しいことは、宇宙を呼べることです。ともに思える宇宙があります。宇宙、その中に私達はいます。田池留吉、アルバートを呼べば宇宙。宇宙の中に私達を感じます。ああこれが、これから二五〇年、三〇〇年、私達がともに伝えていく世界なんだなあ、今、そのように感じています。意識の世界にある私達、思えば通じています。

六一、これまでの流れの延長線上では、真実に巡り会うことは決してありません。真実の世界を知っていくには、自分の中に大きな変革がなければなりません。真実の世界を知らなければ、肉の中においては肉。飛翔はない。飛翔を必要とするのです。私は、

そう思います。

飛翔、それは真実の世界に徹底的に歯向かってきたエネルギーを知るところから始まります。

過去はすべて、田池留吉の世界に徹底抗戦してきた歴史です。

あなたは、これについて、どれだけ自覚がありますか。

愚かな自分を悔い改めるには、まずその徹底抗戦してきたエネルギーを知っていくことです。間違ってきたという懺悔は、そのエネルギーを心で知り尽くしたとき、心の奥底から湧き上がってくるものです。

その体験が必須です。それなくして、自分の中を変革することはできない。よって、自分を変革するには、肉的に言えば、体力、気力を必要とするのです。

六二、私は、田池留吉の世界を心で感じています。

そして、自分の成長とともに、田池留吉の世界が大きく広く深くなっていくことも感じています。

だからこそというのではないけれど、少し言いたいです。

見ても聞こえもしないけれど分かる田池留吉のその口から出された言葉、特に、あなたこういうことは止めなさいと言われたことがあるのならば、それはその通りにしたほうがいいです。

したほうが良いというよりも、しなければ大変なことになります。

脅しとかそういうことではなくて、田池留吉がそういうことを言うというのは、本当に大変なことだからです。

現にその通りにしないで、みすみす学ぶチャンスを逸したり、予定通りの学びができないでいたり、色々とあります。

田池留吉の言う通りにしなければバチが当たるとかそんな低次元のことではありません。できないということがどういふことなのか、そのできない意識の世界があるのでしようか。その意識の世界はどんな世界なのでしようか。

それこそが、田池留吉に反逆する他力そのものの世界なのではないでしょうか。

もつと具体的に言えば、よく分かるかもしれないかもしれませんが、とにかく、そういうことです。大変な状態になってからでは遅過ぎます。

私は、田池留吉、アルバート、その宇宙、真実の世界を自分に伝えるために、強い決意とともに生まれてきた自覚があります。

だから、私は自分を大切にしています。自分を大切にすることはどういふことか知っています。今という時間がどれだけ大切なことかも知っています。

どうぞ、田池留吉に反逆する他力の世界、しっかりと見ていきましょう。

六三、ただひたすら、田池留吉の世界を思い、母を思い瞑想を続けていくこと、それを喜びとしていけるあなたであってください。

アルバートが語ってきます。

心の中にアルバート、その宇宙を思い、私を呼び、心を広げていけることを喜んでいてください。

アルバートの波動が私の中に届きます。アルバートとともに歩いていく道、私の中には喜びが広がっていきます。宇宙の喜びが広がっていきます。

宇宙に私の思いを馳せるとき、アルバートの思いが伝わってきます。

私達はひとつ。宇宙の中でひとつ。田池留吉、アルバート、その宇宙に心を向けることが喜びです。

アルバート、遙かなる宇宙へ思いを向けてまいります。苦しいとき、悲しいとき、辛い

とき、どんなときも私達はひとつでした。ひとつの中にありました。今世、ようやくアルバート、あなたに思いを向け、私はこのように語ることができます。

私の中は喜びです。アルバートを呼べる私は喜びです。私の意識の世界、宇宙は喜びです。遙かなる宇宙、アルバートの宇宙、田池留吉の宇宙に、心を向けています。心にどんな喜びを伝えていきます。これからの時間、私は、心の中に喜びを伝えてまいります。アルバートに思い向け、私は宇宙を呼び続けます。宇宙へ思いを向けるとき、宇宙から喜びが返ってきます。

私達はひとつ。このひとつの思いの中で、私達は次元を超えてまいります。

六四、自己選択、自己責任、ここに込められた思いは、まさにその通りだと思えます。

自分が選んだことなのに、自分で責任が取れない、無責任で独立心のない人には、この学びは難しいでしょう。どこまでいっても他力だからです。他力という意味が理解できないのかもしれない。

他力の心は、非常に冷たい心です。肉的にどんなに優しくしても、他力の心に気付かない

人は、とても冷たいのです。

そのことを、どうぞ、自分を見つめ、自分のエネルギーを知ることによって知っていただく。

そのために、真実の意識の世界が、田池留吉という肉を私達の前に見せているのです。その肉とともに、私達は、長い間、セミナー会場で学ばせていただきました。これほどの愛はありませんでした。

六五、真実の世界を感じ広げていけば、素直が分かってくるし、また本当の意味で素直でなければ、真実の世界を感じ広げていくことはできません。

素直な人は賢いです。本当の意味で賢いです。

賢くなれば、色々なことが分かってきます。心に響いてきます。

そうなれば、今どれだけ幸せなのかはつきりと感じられるから、さらに素直になっていきます。

素直になっていけばいくほど、真実の世界を感じていきます。

こうして、いい循環が自分の中にできてくるのです。

すべては自分次第です。いつまでも悪循環の中にいるのも、そうでなくなるのも、すべては自分次第。

こんな簡単なことでした。それが分かれば、あとは淡々といい循環の中で楽しんでいくだけ。そして、二五〇年後を待つだけです。

六六、セミナー会場で、狂ってきた意識をこの肉体を通して、思う存分出させていただいた頃を懐かしく振り返っています。

あの時間と空間、本当にありがとうございました。たくさん意識達が心から喜んでいきます。ひとつの肉体を通して、徹底的に思いを出させていただきました。過去に培ってきたエネルギー、ブラックのエネルギーをこの肉体を通して、どれだけ出させていただいたことか。すべては自分の計画でしたが、本当に千載一遇のチャンスを得ました。それに耐えうるだけの体力、気力がありません。

たくさんさんのチャンスを得てきました。肉体を通して感じる意識の世界、凄まじいエネルギー

ギーのもとに、今世、ひとつの肉をいただいた喜びと幸せが心に湧き起こってきた瞬間でした。懺悔はもちろんのこと、すべてがここから始まるのだ、私は、そう感じずにはいられませんでした。

そんなチャンスをいただいてきた私です。今、その当時を瞑想する中で懐かしく愛しく振り返っています。

私の中には、母なる宇宙へ帰るその道筋しかありません。田池留吉、アルバートの宇宙へ自分の思いを向ける、その喜びと幸せを心で感じています。

本当に今世、肉をありがとう。狂った暗黒の意識の世界よ、本当にありがとうございます。このように見させていただきました。

今世、その過程を経て、今、瞑想をすること、心を宇宙に向け、異語で宇宙と語り合うこと、それが本当に大きな喜びとなつて、心に返ってきます。宇宙を思う私は喜びです。宇宙が待っていることが喜びです。たくさん宇宙に真実を伝えていく喜び、宇宙とともに次元を超えていく喜び、その喜びが確実に私の中に広がっています。

六七、頭では絶対に理解できない世界、今のこの肉という形を通して自分に伝え感じさせてくれた、このことの他に喜びなんてあるはずがありません。

宝の山をどっさりと私は手に入れました。みんなみんな自分の喜びに繋がっていききました。セミナー会場はそういう場でした。

凄まじいエネルギーを感じさせてくれて、そしてそのエネルギーを大きくただただ包み入れてくれている母の懐をしつかりと心に蘇らせてくれた場でした。

私は、田池留吉の肉とともに、この肉がそのような場を共有できたことが、本当にこれからの自分にとって、どんなに大きな、そして大切な出来事であったのか、当時はもちろんのこと、今も、そしてこれから、私の中に大きく喜びとして、確実な喜びとして広がっていくでしょう。

田池留吉という真実の意識が肉を持ち、セミナーという学びの場を設けていただいたこと、感謝しかありません。

過去、自分を狂わせてきた凄まじいエネルギーであるにもかかわらず、私は、これまで自分を見失わずに過ごすことができました。精神的に不安定になることもなく、自分の計画してきた道筋を進んでいくことができました。

これはみんないいタイミングで学びに集え、そこで集中的に学べる環境があったからです。私はそういう面においても、非常に恵まれています。

すべてが意識の流れの中の出来事だからでしょう。

目覚めるべくして目覚めた意識、目覚めなければならなかった意識、田池留吉という真実の意識が肉を持ってきた意識の流れから、そのように受け取っています。

六八、アルバートに心を向けると、ああ例えばこんな感じ。カチつと音がする。はい、そんな感じ。心を向ける、カチつと音がする。心を向けている、心が向いている、重なっている、カチつと音がする。感覚的に言えばそんな感じ。

アルバートを呼べば、私の思いは広がっていく。

ただただ嬉しいです。心の中に嬉しさ、喜びが広がっていきます。アルバートを思えば思うほど嬉しい。田池留吉、そうですね。アルバートを思えば嬉しいですね。田池留吉を思えば嬉しいです。心がどんどん広がっていきます。どこまでも広がっていきます。

この宇宙の中に私達は、自由の思いを広げていきます。自由なんです。軽く、軽く羽ば

たいている。カチつと音がする。心が合わさっている。心を向けていける喜び。はい、嬉し
いです。はい、心の中が嬉しいです。

軽やかに、軽やかに飛んでいく。私は、それを宇宙の喜びだと伝えていきます。宇宙の喜
びです。宇宙は喜んでいて。軽く、軽く飛び跳ねている。宇宙の中で喜びが飛び跳ねている、
そんな感じがします。

軽やかに、軽やかに飛び跳ねている。宇宙は喜び。宇宙へ思いを向けることが喜び。

温かい母の思いが待っています。はい、私達に向けています。思いを向けてくれています。
その母の思いのほうに私達は歩いていきます。

宇宙がそう叫びます。宇宙にある意識達が、そのように語ります。

「あの温かいところへ、私達は歩いていっているんです。嬉しいです、ありがとうございます」、そ
うやって、軽やかに飛んでいっている、そんな感じがします。

私達の歩みは止まることはありません。アルバートに思いを向ける、アルバートととも
に歩いていく、その歩みは軽やかにステップを踏んでいる。

その歩みは止まることはない。これからもどんどん進んでいきます。

ああ二五〇年、三〇〇年、私達は、その歩みをともしていくんです。心晴れやかに軽

やかに、宇宙とともに歩いていく。この心、アルバートあなたに伝えていきます。アルバートが返ってきます。嬉しいです、ありがとう。そんな思いが広がっていきます。

「アルバート、待っていました。待っていました。アルバートと出会うこと待っていました」、宇宙の意識達が、そう叫んでいます。

六九、これからますます一直線です。これからの二五〇年、三〇〇年に至る時間、私の中には、真つ直ぐの道しかありません。

田池留吉、アルバート、その中に私は喜びを広げていきます。

真実を伝えていく喜びです。宇宙に真実を伝えていく喜びです。波動の世界にこそ真実があった、この波動の中に私達は存在している、そのことを私は喜びで伝えていきます。

宇宙は待っている、そう、私の中の宇宙は待っています。

二五〇年、三〇〇年へ続いていく道、宇宙とともに歩いていきます。

苦しい、苦しい転生を繰り返してきた意識達、そう私の中にたくさん意識があります。

その意識達とともに喜びの道をまっしぐらに歩いていくんです。だから、これからの二五〇

年、三〇〇年、私は、大変楽しみです。

私は、今世のこの時を経て、これから、自分の道をただひたすら真つ直ぐに歩いていきます。田池留吉、アルバート、母なる宇宙へ向けて、私の思いはまっしぐらです。はい、田池留吉、アルバートと思えば、この思いが飛び出てきます。まっしぐらです。何も思うことはありません。心の中には何もありません。

田池留吉、アルバート、その波動の世界、私は心に広げてまいります。

七〇、瞑想の中でアルバートと語ることがとても嬉しいです。

アルバートとともに歩いていく道を、アルバートと語っていく、心の中に喜びが広がっていきます。異語が自然と飛び出していきます。異語とともにアルバートへ語る思い、それは私の喜びの世界を語っていくことです。宇宙へ思いをともに向けています。アルバートとともに思いを向けている、宇宙は喜びだ、そんな思いをともに感じています。

心の中にアルバート、私は、今、その喜びを感じています。たくさん意識達とともにアルバートへ帰る道、母なる宇宙へ帰る道、そんな思いを心に広げる毎日です。瞑想をする

ことがとても楽しみです。

瞑想は喜びです。瞑想の中で語り合うことは喜びです。

アルバートの波動に触れたあの劇的な瞬間を私は、心の中に忘れることはできません。これが私の始まりでした。ここから私のアルバートへの道は始まりました。

約十年の年月が流れています。アルバートとともに歩いていく道、いつも、いつもアルバートを思い、喜びを広げ、喜びへ帰れる道を確認しています。

田池留吉が伝えてきます。

ともに歩いていけること喜びです。私達は幸せです。この喜びを心からどんどん流していきなさい。

田池留吉の思いは私に入ってきます。田池留吉は、優しいです。厳しいけれど優しい。厳しさは愛です。厳しさはただ一点を見つめている優しさです。そんな田池留吉の思いを心に感じ、私は、着実に自分の道を歩いています。ともに歩いていく田池留吉、アルバートの意識。宇宙へ、宇宙へ思いを向けること、これが私の喜びです。宇宙を思い瞑想をすること、田池留吉、アルバートを思い瞑想をすること、ああそこには、母なる宇宙の思いが感じられます。母なる宇宙、お母さん、あなたの思いです。あなたの優しい、優しい温もり、広がりゆく心、

その中に私は、今、心を向けあなたの思いを感じています。母の思いは、母なる宇宙の思いです。母なる思いを心に感じていきます。

はい、意識を向けるとき、嬉しい、ありがとうございます、お母さんありがとう、そんな思いが広がっていきます。

七一、田池留吉、アルバート、凄まじいエネルギーを語ることは喜びです。そう喜びなんです。ただただ嬉しい、嬉しい思いが心に広がっていきます。

凄まじい思いなどとは言ってられないです。その凄まじいエネルギーがあればこそ、今の私があります。

田池留吉、アルバートとともに歩いていく私の道筋が見えています。そのエネルギーの中に、私は喜びを、本当に喜びを感じています。

お母さん、ありがとうございます。全宇宙に向けて、お母さんの意識の世界に向けて、そう私は思いを向けています。

心からありがとうございます。田池留吉、アルバートその宇宙を感じる時、その思い

が自然と湧き起こってきます。

暗黒の世界を語ることは喜びです。そのエネルギーを感じていくことは喜びです。何度も、何度もセミナー会場で感じさせていただきました。感じれば感じるほど喜びが大きくなっていきました。すごいエネルギーの中にこそ、本当の喜びと幸せがあつた、本当に真実を求め続けてきた私の本当の思いがあつた、優しい母の温もり、温かい温かい母の温もりの中に私は包まれていたことを感じずにはいられませんでした。

田池留吉、アルバート、心の底からありがとうを伝えたいです。ともにともに歩いていくこれからの時間、私は、本当に幸せの道を、一步、一步、着実に歩いていきます。

毎日、毎日が嬉しいです。瞑想をして自分を感じるたびに嬉しいです。

その思いだけが心に広がっていきます。

七二、田池留吉、はい、心を向ける喜びを知りました。心の中に優しい思い、温もりが広がっていきます。その心の世界に私の意識を向けることを知りました。それが今世でした。

心を向ければ、喜びが広がっていきます。ただただ嬉しいです。

幸せを感じるのには、何も要らないと心が伝えてくれます。

本当にそうです。心が伝えてくれます。私が伝えてくれます。田池留吉、アルバートの世界は、広い、広い世界、喜びと温もりの世界、ひとつにある喜びを伝えてくれます。

この喜びと幸せを知ったから、肉の私も本当に幸せです。

絶対なる信、そう表現してもいいでしょう。信の強さが喜びを伝えてきます。

私は初めから幸せでした。私は初めから喜びでした。このことが実感できます。

その幸せと喜びを遠くに追いやってきたけれど、今世、こうして、真実を知るチャンスに恵まれたのだから、それはもうありがたいだけです。

きっと皆さんもそうでしょう。学びに出会えたことは、本当に幸せです。

おそらく、ほとんどの人がそのように思っておられるでしょう。

そして、そこから、どんどん自分の中の喜びを広げていけばいいだけです。素直になって、自分の中の温もりをどんどん感じていけば、そこには、ただただありがたいがとうの世界が広がっています。

私は、今、そのような時間をいただいています。だから瞑想する時間は嬉しいです。

本物を知った心には、何もなくてもこの心があればいい、田池留吉を思うことはそうい

うこと、アルバートを思うことはそういうこと、だから最終的にはありがたいかありませんとなってくるのです。

七三、アマテラスに思いを向け、私の中のアマテラスを語ります。

はい、嬉しいです。アマテラスの喜びが伝わってきます。宇宙とともにアマテラスが変わっていった喜びを伝えてきます。

はい、アマテラスは喜びです。私の中のアマテラスは喜びです。

これからの道筋がしっかりと見えています。田池留吉、アルバートとともに歩いていく道筋です。

アマテラスは苦しみではありません。アマテラスは恐怖ではありません。アマテラスは孤独ではありません。

アマテラスはすごい、すごいパワーの持ち主です。しかし、そのパワーの質が変わりました。心の中に田池留吉、アルバートを素直に呼べるアマテラスは、とてもとても優しい温

もりの世界を広げています。

私の中のアマテラス、そのアマテラスの心がそう語ってきます。伝わってきます。

私達はともに次元を超えていく、そんな宇宙を、アマテラスのもとに呼び寄せています。そう、宇宙を制覇してきたアマテラス、この地球上で、アマテラスの力を及ぼしてきました。アマテラスはとても、とても大きなエネルギーでした。ブラックパワーをこの地球上に降り注いできました。しかし、今世を境にアマテラスのエネルギーの質が変わりました。

私の中のアマテラスがどのように伝えてきます。

皆さんの中のアマテラスはどうでしょうか。

私達は喜びですと伝えてきますか。私達は幸せですと伝えてきますか。暗黒の世界で孤獨なアマテラスの世界を、まだ我こそ一番なり、宇宙を制覇するもの、宇宙を制覇するパワーの持ち主、そのようにアマテラスがまだまだ大きな勢力を振りかざしていますか。

私の中のアマテラスはとても優しいです。優しいけれど、とてもしつかりとしています。

それは、自分の姿を知っているからです。アマテラスは、田池留吉、アルバートとともに歩いていく意識、そうアマテラスの目覚めを私はいただきました。

だからこそ、とてもこれからの時間を楽しく喜びで通過していけるのです。その先にあ

る喜びの世界に思いを向けています。

とてもとても大きな喜びです。はい、光り輝く喜びの中に、アマテラスの宇宙、その傘下にあるたくさん宇宙、それとともに歩いていくんです。次元を超えていくんです。その道筋がしつかりとついています。

この道は、もう何をもってしても曲げることはできません。

田池留吉、アルバート、母なる宇宙へ続く道です。はい、波動の世界、意識の世界、私達は歩いてまいります。

七四、今世、なぜ肉を持ってきたのか、なぜこの学びに繋がったのか、そして、私は、なぜ、今、田池留吉を思い、お母さんを思い瞑想を続けているのか、目的意識がはつきりとしています。

私は私に目覚めたかったからです。真実の世界にある私に気付きたかったからです。真実を知りたかったからです。目的意識がはつきりとしていて、私は、自分の道をしっかりと歩いていきます。これからも道を歩いていきます。私の中にその思いがとても強いです。

田池留吉、アルバートに出会う意識、そして、その道をただひたすらに歩いていく意識です。

私は、この学びに懸けてきました。今世の時間に懸けてきました。その強さ、その思いの強さは誰にも引けを取りません。とても、強い、強い思いです。そして、私は、自分のその真なる思いに沿って、これからの時間を過ごしていきます。

中の思いを精査すればするほど、この思いだけが出てくるのです。

私の中には、田池留吉、アルバート、その意識との出会い、宇宙との出会い、母なる宇宙へ歩いていく意識であった、その私を感じることに、そのことだけが出てきます。

私は、私の中を精査しています。プラスもマイナスもない、ゼロの目で私は、私を見つめています。

今のこの肉、とても大切です。来世の肉、とても大切です。これからの二五〇年の時間、とても大切です。そして、二五〇年後の再会から五十年、宇宙へ心に向け、心にアクセスしてくるたくさんの意識達に思いを向け、真実の波動の世界にともに歩いていこうと呼びかけていく時間、とても大切です。

その時間の中で、私達は、どんどん次元を超えていくんです。次元を超えた先、私達の思いはひとつになって、真実の方向へ進んでいきます。

肉を必要としてきた今世、肉を必要としてくる二五〇年後です。その肉とともに、私達

の意識は、宇宙への思いをしっかりと心で確認しながら、喜び幸せの道を歩いていく、こんなすごい計画はありません。

三次元の中で、ようやく私達が出会った喜びと幸せの道です。

地球への思い、私達は、心を感じています。

アマテラスにも心を向けています。宇宙を制覇してきたアマテラスの意識、宇宙を制覇してきた大きなエネルギー、そのエネルギーに心を向け、そのエネルギーとともに歩いていく道、それがアルバートへの道、母なる宇宙への道、しっかりとした足取りを自分の中で確立させた今世、その中で私は、喜びと幸せを感じています。

七五、もちろん、田池留吉の肉がなくなっても、田池留吉の意識は三次元から離れることはありません。もうしばらく、その意識は三次元に留まっています。私達の学びが続いていきます。田池留吉、アルバートの意識、その中で、私達は、宇宙を目指します。この三次元の中で、自分達の本来の宇宙をしっかりと確立していきます。

田池留吉、アルバート、その宇宙、はい、今、その宇宙に心を向けられる最終の時期です。

三次元最終の時間、これからの二五〇年の間、その中で、私達は、それぞれに答えを出さなければなりません。自分の意識の世界に明確な答えを出さなければなりません。

私は、そのことを伝えます。アマテラスの心を感じるとき、アマテラスの心はひとつの答えを出しました。

「私達は、母なる宇宙を目指します。この三次元を経て、私達は次元を超えていきます」と、その答えが心に伝わってきます。

あと三〇〇年の時間の中で宇宙に点在する意識達、その意識達とともに私は、心に向けてまいります。田池留吉、アルバート、その意識が三次元に留まる時間はあと三〇〇年。

はい、このように、心に伝わってきます。瞑想をする中で、しっかりと心に伝わってくる思いです。田池留吉、アルバート、本当にありがとうございます。三次元に降り立っていただきました。ああ私達の目覚めを促してくれました。アマテラスをはじめとして、宇宙を制覇してきたエネルギー、そのエネルギーの一端が今世の目覚めをいただきました。本当に嬉しいです。田池留吉、アルバート、本当にありがとうございます。

七六、心の中に宇宙、たくさん意識達に、宇宙に思いを向ける毎日です。宇宙へ思いを向けることがとても嬉しいです。宇宙と語っています。宇宙と語り合う、宇宙を思い、宇宙と語り、宇宙の思いを聞く、こんなに嬉しいことはありません。肉を持ちながら宇宙と交信できる、私の中の宇宙、喜びの中の宇宙があります。

田池留吉、アルバートへ心に向けていることを喜びとしている宇宙達、今、今、心に伝わってきます。

「私達は、田池留吉、アルバートの宇宙へ帰ります。喜び勇んで帰ります。その道筋を教えてくださいいただきました。これから二五〇年の時間、その中で、田池留吉、アルバートを呼び続けます。

私達もまたその世界へ心に向けてまいります。私達の思いは、ともにひとつを目指しています。母なる宇宙へ思いを向けていきます。

母なる宇宙へ帰っていききたい、帰っていかうとするたくさん意識達です。その中に私達は帰ります。はい、ありがとうございます。

これからの時間、私達の心の中に、ともにともにといい思いを広げていきます。ひとつ

の目覚めから、さらに宇宙が目覚めていく、たくさんの宇宙へその思いが伝わっていきます。

田池留吉、アルバートの思いが伝わっていきます。意識の伝達は、光よりも速いです。

二五〇年後という一点を境にして、私達は、今よりももっと早いスピードで母なる宇宙を目指してまいります。

今、ひとつの肉を通し、私達の思いを語らせていただいています。私達は、地球から遙か、遙か、遠い、遠い空間に私達は存在している意識です。

ひとつ、ひとつを感じます。はい、私達に思いを向けてくだされば応えます。通じています。私達の思いは通じています。ひとつになつて、心を見てまいります。そのように通じています。心の中に喜びの思いを広げていける、田池留吉、アルバートと呼んでいける、その喜びを私達も共有しています。ともに心を見てまいります。ありがとうございます、嬉しいです。」

七七、遙かなる宇宙、愛しき宇宙。

田池留吉を思い、アルバートを思い、宇宙を思い、今の時間本当に幸せです。心に伝わってくる思いは喜びです。はい、ありがとうございます。

伝えたかったこの思い、真なる世界へ繋がっていることを伝えたかった。

田池留吉、アルバート、心を向けています。たくさん意識達を感じます。

瞑想をする時間はとても幸せな時間です。目を閉じて心を向けられること幸せです。

心を大きく、大きく広げていきます。どんどん心が広がっていきます。温かい温もりが心に広がっていきます。幸せです。

幸せを感じるのに、本当に何も要りませんでした。この心があればそれでよかったです。心から湧き起こってくる喜びの思いは、私のものでした。

絶対に消え去ることのない喜びと幸せ、ああそうなんです。思えばいつも応えてくれていた田池留吉の世界でした。優しくて限りなく優しく、広くて温かい思いは、いつも私とともにありました。

思えば嬉しい、思えば幸せ、思えばありがとうございます。本当にありがとうございます。

七八、田池留吉に思いを向ける、心に伝わってくる波動の世界、それは限らない優しさも温もりの世界。波動を感じ、異語で応えます。それがとても嬉しいです。心に伝わってきます。喜

びと優しさが伝わってきます。静かな、そしてゆったりとした時間と空間、そんな中にあることが幸せです。

田池留吉の世界は心で感じていく世界です。限りはありません。無限大に広がっていく世界です。その中にもにある喜び、その喜びを感じていけば、どう存在していけばいいのかわ、自ずと答えは出てきます。大切な今という時です。

瞑想をする時間を持つことが、最大の幸せでしょう。反対に、何のために生まれてきたのか心で感じられなければ、最大の不幸せでしょう。肉を持ったことを最大限に活かして、幸せな自分に出会いましょう。

お母さん、ありがとうございますと心から言える喜びを、一人でも多くの人が、自分の心の中で味わえたならと思います。

お母さんと心で呼べば、無条件に嬉しい、喜びの思いが湧き起こってきますか。その世界は、本当に喜びと温もりに包まれた世界です。ただただ嬉しい、ありがたいの世界です。

その人、田池留吉 第1巻 (ホームページより)

2011年5月20日 第1版第1刷発行

編集 / 発行 U T A会

印刷 / 製本 モリモト印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

© 2011 Printed in Japan